

ScreenBeam 1100 Plus ワイヤレスディスプレイ 受信機

ファームウェア 11.1.17.0

ユーザーマニュアル

V1.5

カタログ番号 : SBWD1100P 用

目次

パート I.	IT 管理者のためのデバイス管理.....	1
1.1	ScreenBeam CMS ソフトウェアを使用する.....	1
1.2	ScreenBeam のローカル管理を使用する.....	1
1.2.1	方法 1 : ScreenBeam ローカル Wi-Fi ネットワーク	2
1.2.2	方法 2 : DHCP を介したネットワーク接続.....	5
1.2.3	方法 3 : ワイヤレス P2P 直接接続.....	5
1.3	ScreenBeam を設定する.....	7
1.3.1	一般設定.....	7
1.3.1.1	受信機の名前の変更.....	7
1.3.1.2	Login Username (ログインユーザー名) と Password (パスワード) の設定	8
1.3.1.3	受信機の表示言語の設定.....	9
1.3.1.4	受信機の Host Name (ホスト名) の変更.....	10
1.3.1.5	タイムゾーンと NTP タイムサーバーの設定.....	11
1.3.2	経由のワイヤレスディスプレイ.....	12
1.3.2.1	Windows 10/11 デバイス用に LAN 経由のワイヤレスディスプレイ 接続を設定する.....	12
1.3.2.2	macOS/iOS デバイスの AirPlay ミラーリングの設定.....	14
1.3.2.3	Chrome OS デバイスおよび Chrome ブラウザ搭載デバイス用の Chromecast ミラーリングの設定.....	17
1.3.3	P2P ワイヤレス設定.....	19
1.3.3.1	Miracast 接続の設定.....	19
1.3.3.2	P2P 操作チャンネルの設定.....	20
1.3.3.3	送信電波強度の設定.....	21
1.3.4	セキュリティ設定.....	22
1.3.4.1	PIN ペアリング方法の設定.....	22
1.3.5	表示設定.....	25
1.3.5.1	表示共有モードの設定.....	25
1.3.5.2	クイックスイッチ/マルチビューの受信機名表示の設定.....	27
1.3.5.3	受信機のアイドル画面での情報表示の設定.....	29
1.3.5.4	受信機のアイドル画面への日時表示の設定.....	32
1.3.5.5	受信機のアイドル画面にローカル Wi-Fi のパスワードを表示 する設定	34
1.3.5.6	受信機のアイドル画面に Wi-Fi QR コードを表示する設定.....	36
1.3.5.7	HDMI®ポート出力の管理.....	38
1.3.5.8	受信機のウェークアップ.....	40
1.3.5.9	テレビ画面のサイズを調整する.....	41
1.3.5.10	HDMI-CEC の設定.....	42
1.3.5.11	受信機の背景画像を更新する.....	43
1.3.5.12	受信機のスクリーンセーバー画像の更新.....	45
1.3.6	デジタルサイネージ設定.....	47

1.3.7	ネットワーク設定.....	49
1.3.7.1	ローカル Wi-Fi ネットワークモードの設定.....	49
1.3.7.2	CMS 接続用インターフェースの設定.....	51
1.3.7.3	インターネット WAN インターフェースの設定.....	52
1.3.7.4	イーサネットインターフェースのネットワーク名の変更.....	53
1.3.7.5	受信機の IP アドレスの設定.....	54
1.3.7.6	受信機の DNS サーバーの指定.....	56
1.3.7.7	VLAN タギングの設定.....	58
1.3.8	ローカル Wi-Fi 設定.....	60
1.3.9	受信機管理アクセス設定.....	62
1.3.9.1	受信機に ScreenBeam CMS を指定する.....	62
1.3.9.2	受信機の LMI 用ポートの指定.....	64
1.3.9.3	ローカル管理インターフェースアクセスの設定.....	65
パート II.	受信機のファームウェア更新.....	67
2.1	LMI 経由でのファームウェアアップデート.....	67
2.1.1	ローカル PC 上でのファームウェアアップデート.....	67
2.1.2	インターネットからのファームウェアアップデート.....	70
2.2	USB を使用したファームウェアアップデート.....	72
パート III.	受信機のメンテナンス.....	74
3.1	受信機の自動再起動設定.....	74
3.2	受信機ログを設定する.....	75
3.3	LMI で受信機のログをエクスポートする.....	76
3.4	リセットボタンの無効化.....	77
3.5	USB ポートの設定.....	78
3.6	システム稼働時間の表示.....	80
3.7	受信機の再起動.....	81
3.8	受信機をデフォルトにリセットする.....	82
3.9	最適なパフォーマンスのためのヒント.....	84
付録 I.	トラブルシューティングとよくある質問 (FAQ)	85
	トラブルシューティング.....	85
	よくある質問 (FAQ)	87
付録 II.	注意事項.....	90
	保証について.....	90
	GPL 情報.....	90
	テクニカルサポート.....	90
	FCC 警告.....	91
	CE ステートメント.....	92
	TELEC ステートメント.....	94
	NCC の警告.....	95

パート I. IT 管理者のためのデバイス 管理

ScreenBeam 1100 Plus は、ScreenBeam CMS ソフトウェアまたは ScreenBeam の Local Management Interface (LMI, ローカル管理インターフェイス) を使用して設定することができます。

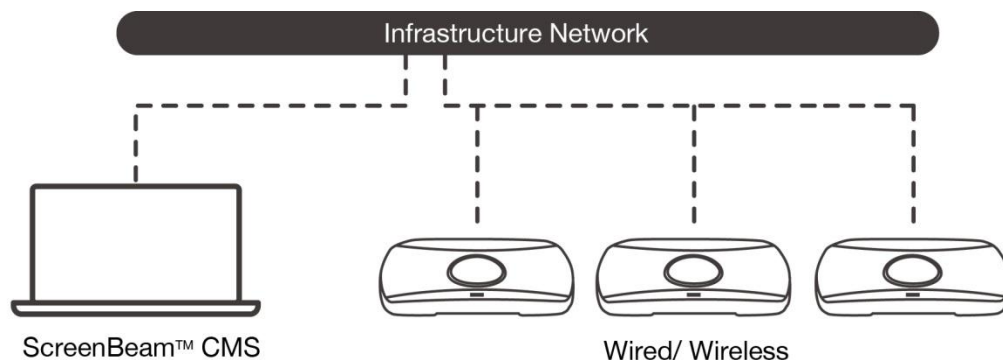
1.1 ScreenBeam CMS ソフトウェアを使用する

ScreenBeam Central Management System (CMS, セントラル管理システム) は、マルチユニット展開、設定、管理のために非常に お勧めできる補完ツールです。

1. CMS ソフトウェアと CMS ユーザーガイドを入手する場合は、以下にアクセスしてください：

<https://support.screenbeam.com/cms>.

2. セットアップ手順については、CMS ユーザーガイドを参照してください。



1.2 ScreenBeam のローカル管理を使用する

ローカル管理インターフェイスでは、一度に 1 台の ScreenBeam を設定、更新することができます。LMI にアクセスするには 3 つの方法があります：

- 方法 1：ScreenBeam ローカル Wi-Fi ネットワーク
- 方法 2：DHCP 経由のネットワーク接続
- 方法 3：ワイヤレス P2P ダイレクト接続

注意：

Local Management Interface Access (ローカル管理インターフェイスアクセス) は、以下のいずれかの場合に可能となります：

- 受信機の **Local Management Interface Access** (ローカル管理インターフェイス アクセス) が **Auto** (自動) に設定されており、受信機が CMS に接続されていない。

- 受信機の Local Management Interface Access（ローカル管理インターフェースアクセス）が Enable（有効）に設定されている。

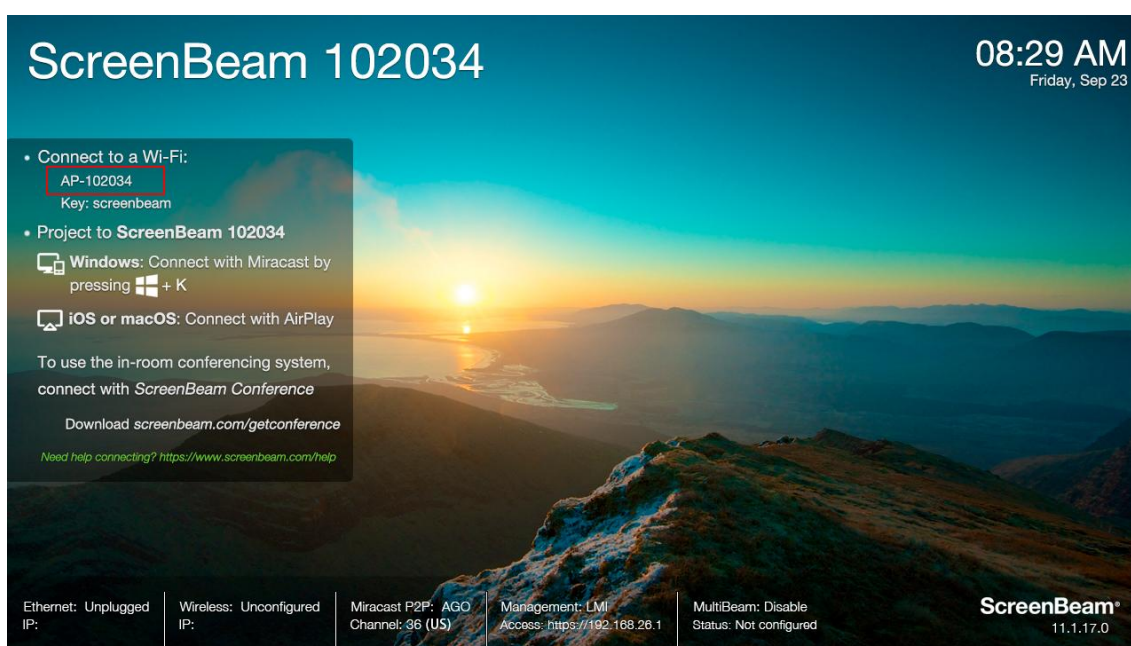
Local Management Interface Access（ローカル管理インターフェースアクセス）の詳細については、「5.3.9.3 ローカル管理インターフェースアクセスの設定」を参照してください。

1.2.1 方法1：ScreenBeam ローカル Wi-Fi ネットワーク

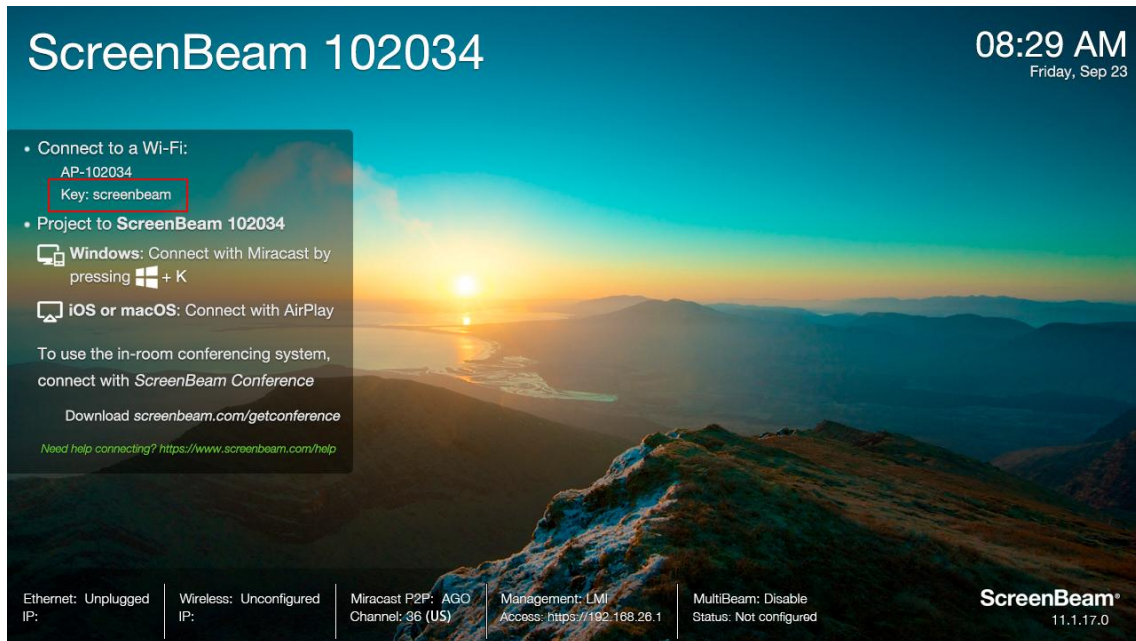
ユーザーのデバイスが ScreenBeam 受信機の Local（ローカル）Wi-Fi に接続されている場合、ScreenBeam 受信機の LMI には <https://192.168.26.1> からアクセスできます。

以下の手順に従って、ScreenBeam 受信機の LMI にアクセスしてください、

1. クライアントデバイスの Wi-Fi を、TV に表示される ScreenBeam Local（ローカル）Wi-Fi ネットワーク（AP SSID）に接続します。



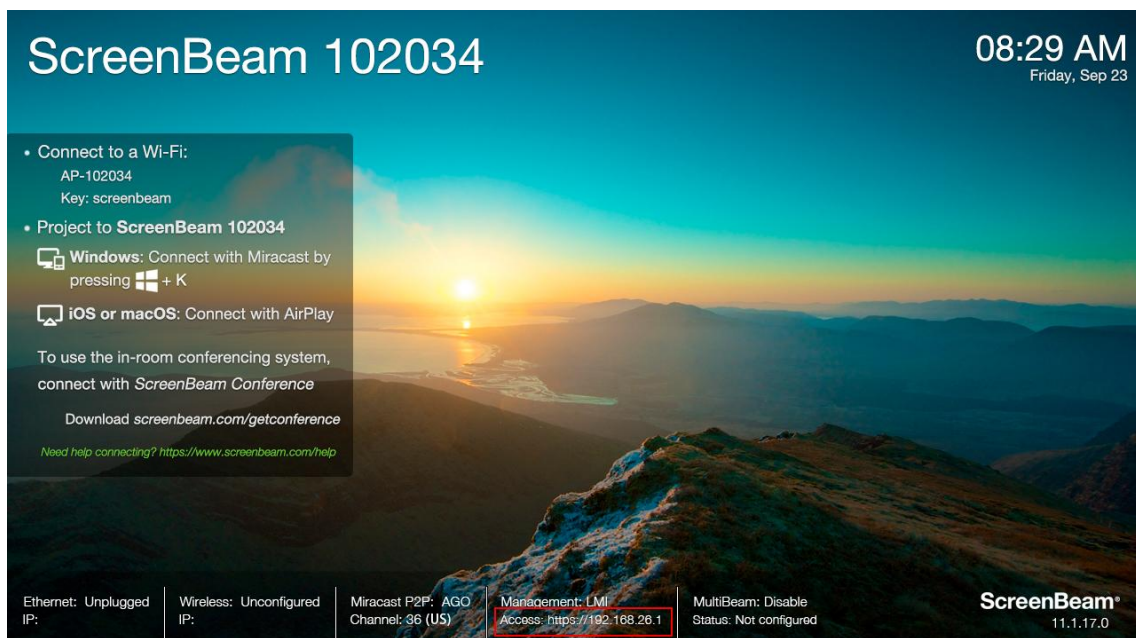
2. ワイヤレスネットワークのパスワードを入力してください。デフォルトのパスワードは **screenbeam** です（大文字と小文字は区別されます）。



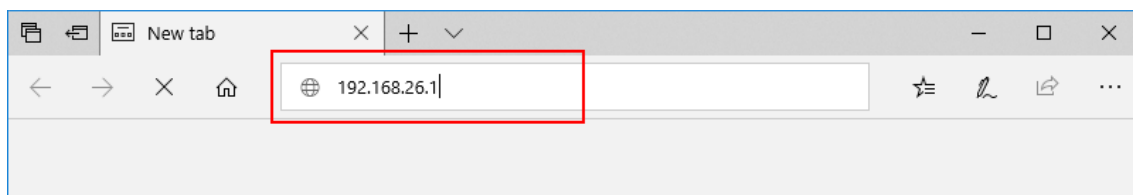
3. ディスプレイ上の受信機のアイドル画面には、ScreenBeam に設定された IP アドレスが表示されます。

注意：

- 受信機が既存のワイヤレスネットワークや LAN に接続されていない場合、IP アドレスは **192.168.26.1** です。
- 受信機がネットワークに接続されている場合、IP アドレスは受信機のアイドル画面で確認することができます。



4. 割り当てられた IP アドレスをデバイスのウェブブラウザに入力してください。



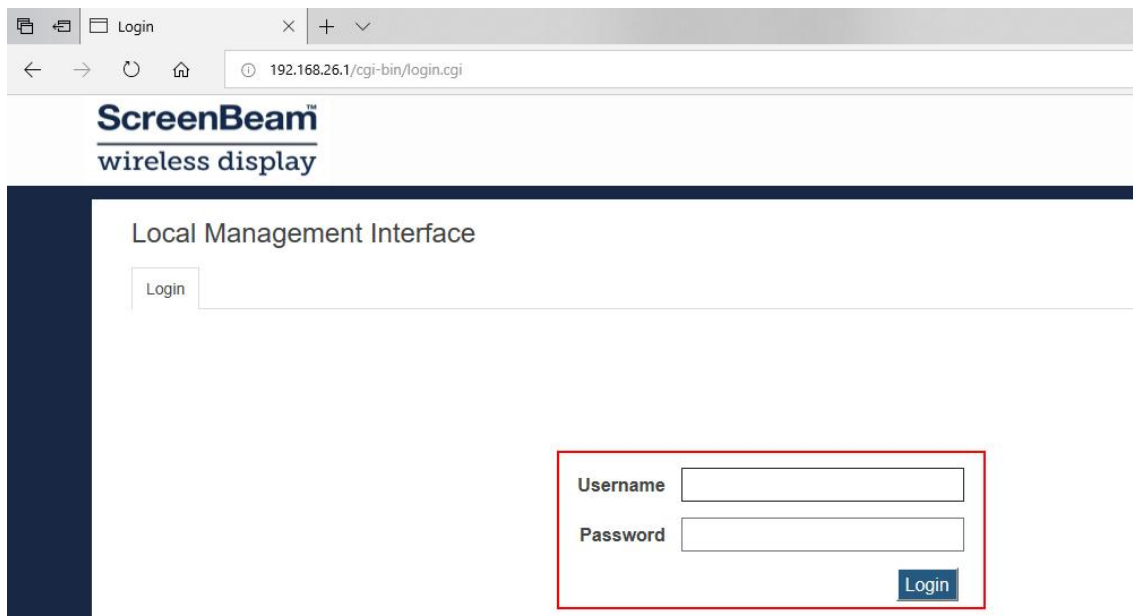
5. ブラウザが「接続またはサイトがセキュアまたはプライベートではありません」というエラーを出す場合があります。その場合は、以下の手順で手動で接続を許可してください：

- Chrome ブラウザ：Advanced（詳細設定）をクリックし、Continue to...（…に進む）をクリックします。
- Edge ブラウザ：Details（詳細設定）をクリックし、Continue to...（…に進む）をクリックします。
- IE ブラウザ：Details（詳細設定）をクリックし、Go on to the webpage（ウェブページに進む）をクリックする（お勧めしません）。
- Firefox ブラウザ：Advanced（詳細設定）をクリックし、Accept the Risk and Continue（リスクを受け入れて続行）をクリックします。

6. ScreenBeam 管理ページが表示されたら、ユーザー名 **Administrator** とパスワード **screenbeam**（両方とも大文字と小文字を区別）を入力します。

デフォルトでは、ユーザー名は **Administrator**、パスワードは **screenbeam** です。

注意：ファームウェア 11.0.6.0 以前のデフォルトパスワードは **Actiontec** です。また、ファームウェアを新しいバージョンにアップグレードしても、デフォルトのパスワードは変更されません。パスワードは、ScreenBeam 受信機がリセットされた場合にのみ更新されます。

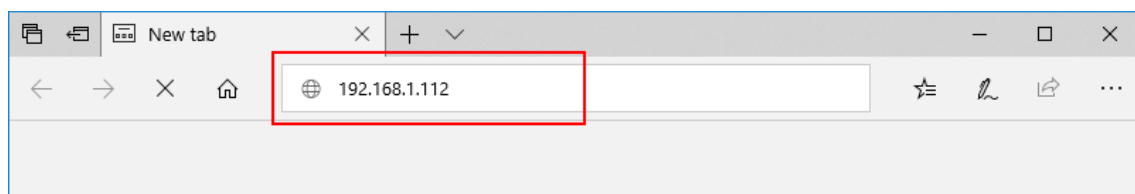
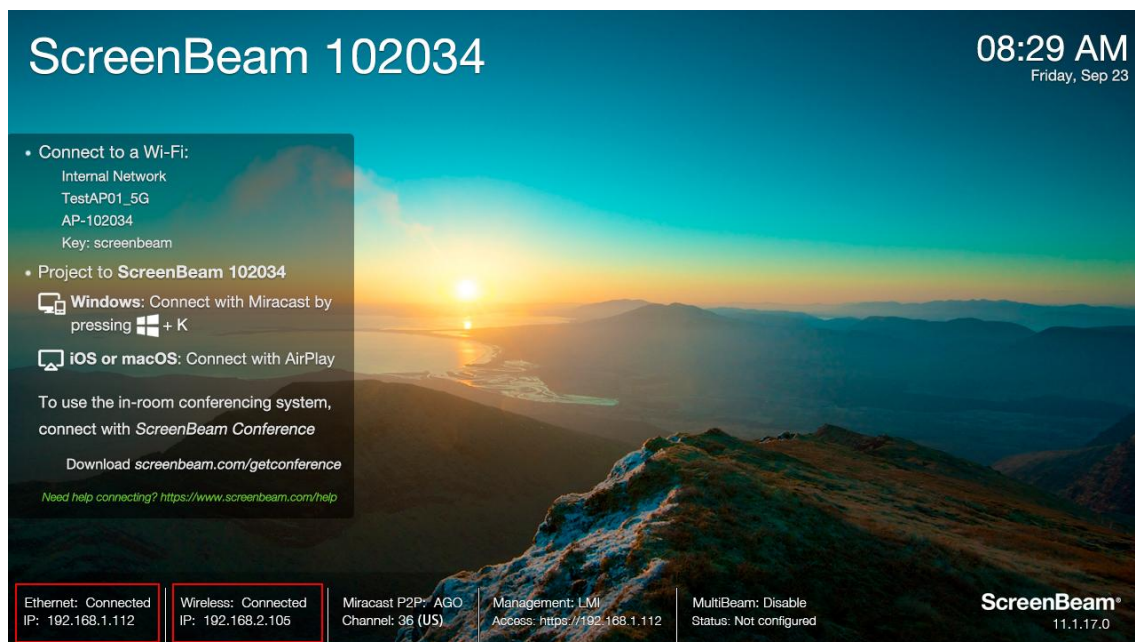


1.2.2 方法2：DHCP を介したネットワーク接続

ScreenBeam 受信機の LMI は、受信機が DHCP ネットワークから取得した IP アドレス (<https://+受信機の IP アドレス>) を介してアクセスすることができます。

以下の手順に従って、ScreenBeam 受信機の LMI にアクセスしてください。

1. シールドされた RJ-45 終端 Cat5e 以上のイーサネットケーブルを使用して、ScreenBeam イーサネットポートを DHCP 対応ネットワークに接続します。
2. ディスプレイの受信機のアイドル画面には、ScreenBeam に設定された IP アドレスが表示されます。このアドレスを ScreenBeam と同じネットワーク上のデバイスの Web ブラウザに入力します。



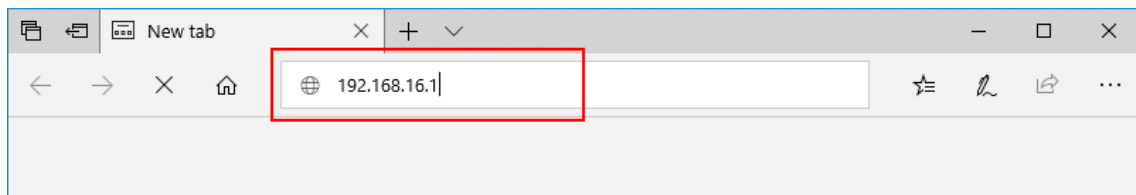
3. 方法1のステップ5以降の指示に従ってください。

1.2.3 方法3：ワイヤレス P2P 直接接続

ユーザーのデバイスが Wi-Fi Miracast 経由で ScreenBeam 受信機に接続している場合、ScreenBeam 受信機の LMI には <https://192.168.16.1> 経由でアクセスできます（デフォルト）。

ScreenBeam 受信機の LMI にアクセスするには、以下の手順に従ってください。

1. Windows 10/11 デバイスを使用して、**3.3 Wi-Fi Miracast をを使用した接続の項**に従って、デバイスを ScreenBeam に接続します。
2. 接続後、ウェブブラウザに <https://192.168.16.1> を入力し、LMI にアクセスします。



3. 方法1のステップ5からの指示に従ってください。

1.3 ScreenBeam を設定する

LMI にログインした後、ScreenBeam 1100 Plus をを設定することができます。

1.3.1 一般設定

このセクションでは、受信機の一般的な設定について説明します。

1.3.1.1 受信機の名前の変更

受信機の名前を変更するには、以下の手順に従ってください：

1. **Device Configuration** (デバイス設定) タブをクリックして、**Device Configuration** (デバイス設定) タブページに移動します。



2. **Device Name** (デバイス名) ボックスに新しい名前を入力します。

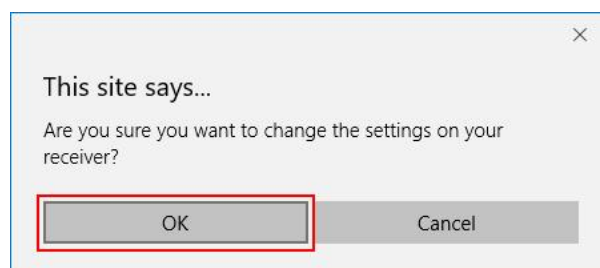
Device Status	Idle
Device Name	ScreenBeam 102034
Manufacturer Name	ScreenBeam Inc.

受信機の**デバイス名**は、以下の文字をサポート しています：

- A-Z, a-z, 0-9
- `~!@#%&* () _+=-{} |¥] [: " ' ; < > ? / . ,
- 以下の範囲の Unicode を持つ日本語の文字：¥u3040-¥u30FF, ¥u31F0-¥u31FF, and ¥u4E00-¥u9FBF.
- 簡体字と繁体字

また、デバイス名の長さは 1～32 文字とします。

3. **Apply** (適用) ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスの **OK** をクリックして確認します。



注意：新しい設定は直ちに有効になります。

1.3.1.2 Login Username (ログインユーザー名) と Password (パスワード) の設定

ユーザーログイン用のユーザー名とパスワードを変更するには、以下の手順に従ってください：

1. **Device Configuration** (デバイス設定) タブをクリックして、**Device Configuration** (デバイス設定) タブページを開きます。



2. **Administrator Username** (管理者ユーザー名) 行と **Administrator Password** (管理者パスワード) 行に進み、**Administrator Username** (管理者ユーザー名) ボックスと **Administrator Password** (管理者パスワード) ボックスに、それぞれ新しいユーザー名とパスワードを入力します。

Hardware Version	11.3.2.0
Administrator Username	Administrator
Administrator Password	
Display Language	English

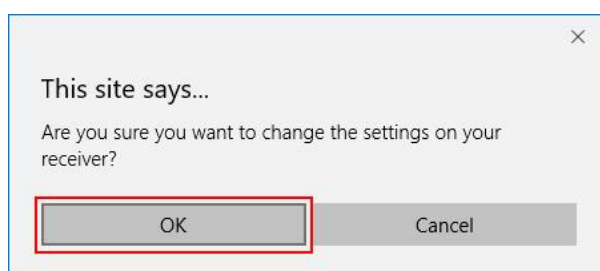
Administrator Username (管理者ユーザー名) に使用できる文字は次のとおりです：A-Z、a-z、0-9、そして @#\$_- です。

管理者ユーザー名の長さは、1 ～ 16 文字です。

Administrator Password (管理者パスワード) に使用できる文字は、次のとおりです：A-Z、a-z、0-9、そして @#\$_- です。

管理者パスワードの長さは、1～16 文字とします。

3. **Apply** (適用) ボタンをクリックし、ポップアップ メッセージ ボックスで **OK** をクリックして確認します。



1.3.1.3 受信機の表示言語の設定

受信機の表示言語を設定する場合は、以下の手順に従ってください：

1. **Device Configuration** (デバイス設定) タブをクリックして、**Device Configuration** (デバイス設定) タブページに移動します。

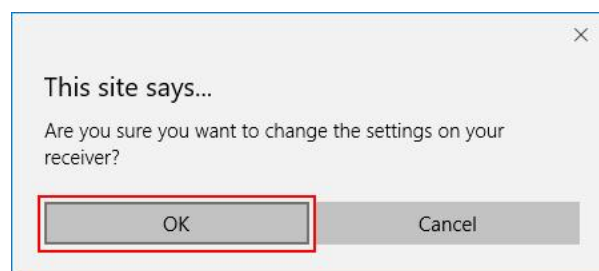


2. **Display Language** (表示言語) 行に進み、**Display Language** (表示言語) ドロップダウン・ボックスから希望の言語を選択します。

注意：この操作はテレビ画面に表示される言語を変更するものであって、設定ウェブページに表示される言語を変更するものではありません。

Administrator Username	Administrator
Administrator Password	
Display Language	English
* Host Name	SBWD-102034

3. **Apply** (適用) ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスの **OK** をクリックして確認します。



1.3.1.4 受信機の Host Name（ホスト名）の変更

Host Name（ホスト名）は、ネットワーク内で受信機を識別するために使用されます。

受信機の Host Name（ホスト名）を変更するには、以下の手順に従ってください：

1. **Device Configuration**（デバイス設定）タブをクリックして、**Device Configuration**（デバイス設定）タブページに移動します。



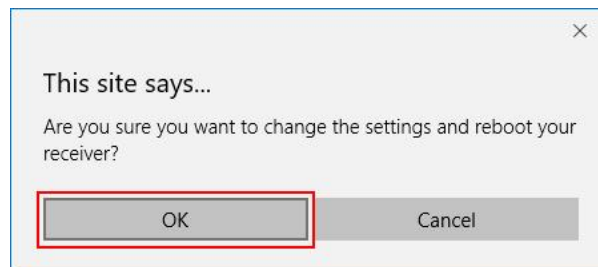
2. Host Name（ホスト名）の行に移動し、Host Name（ホスト名）ボックスに新しいホスト名を入力します。

Host Name（ホスト名）に使用できる文字は以下のとおりです：A-Z、a-z、0-9、ハイフン（-）です。

Host Name（ホスト名）の長さは1～63文字です。

The screenshot shows a configuration form with three rows. The first row is 'Display Language' with a dropdown menu set to 'English'. The second row is '* Host Name' with a text input field containing 'SBWD-102034', which is highlighted with a red box. The third row is '* Time zone' with a dropdown menu set to '(UTC+00:00) Universal Time' and a checkbox for 'Daylight saving time i'.

3. Apply（適用）ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスの OK をクリックして確認します。



注意：受信機の新しいホスト名は、再起動後に有効になります。

1.3.1.5 タイムゾーンと NTP タイムサーバーの設定

ScreenBeam 1100 Plus は、NTP サーバーと時刻を同期します。

受信機のタイムゾーンと NTP タイムサーバーを設定する場合は、以下の手順に従ってください：

1. Device Configuration (デバイス設定タブ) をクリックして、Device Configuration (デバイス設定タブ) ページに移動します。



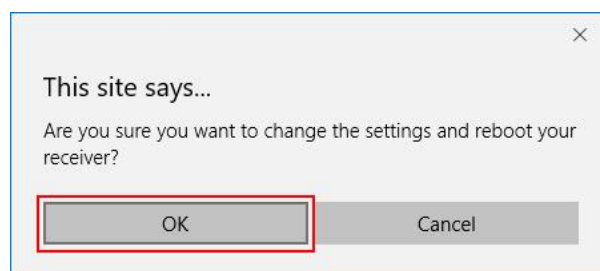
2. Time zone (タイムゾーン) ドロップダウンボックスで希望のタイムゾーンを選択し て、デフォルトの NTP タイムサーバーを変更する場合は、NTP Time Server (NTP タイムサーバー) ボックスに新しいタイムサーバーアドレスを入力します。

NTP Time Server (NTP タイムサーバー) の長さは 1~128 文字です。

The screenshot shows a configuration form for NTP Time Server. It includes three fields: '* Host Name' with the value 'SBWD-102034', '* Time zone' with a dropdown menu showing '(UTC+00:00) Universal Time' and a checkbox for 'Daylight saving time i', and '* NTP Time Server' with the value 'pool.ntp.org'. A red box highlights the Time zone and NTP Time Server fields. Below the form, it shows 'Current Time' as '11/05/2024 07:16:20'.

注意：時刻同期にはインターネット接続が必要です。

3. Apply (適用) ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスの OK をクリックして確認します。



1.3.2 経由のワイヤレスディスプレイ

LAN 経由のワイヤレスディスプレイオーバー LAN は、Miracast 非対応デバイスをローカルネットワーク接続で投影することを可能にします。ScreenBeam 受信機は、イーサネット（推奨）またはワイヤレスでソースデバイスと同じネットワークに接続する必要があります。

1.3.2.1 Windows 10/11 デバイス用に LAN 経由のワイヤレスディスプレイ接続を設定する

Windows 10/11 デバイスが Miracast 対応でない場合でも、以下の条件を満たしている限り、LAN 経由で画面を投影することができます：

- オペレーティングシステム：Windows 10/11、21H2 またはそれ以降
- 100M/1000M イーサネットアダプター（オプション、推奨）、Wi-Fi アダプターが利用可能であること。
- 安定したローカルエリアネットワーク
- Windows 10/11 機器と ScreenBeam 1100 Plus 受信機が同じ LAN に接続されていること。
- 必要なポート：UDP 5353、TCP 7250、TCP 7236
 - UDP 5353、マルチキャスト DNS (mDNS) 検出用
 - TCP 7250、Miracast over LAN データストリーム用
 - TCP 7236、RTSP 用

Windows 10/11 デバイスで Miracast を LAN 経由で設定する場合は、次の手順に従ってください：

1. Features（機能）タブをクリックして、Features（機能）タブページに移動します。



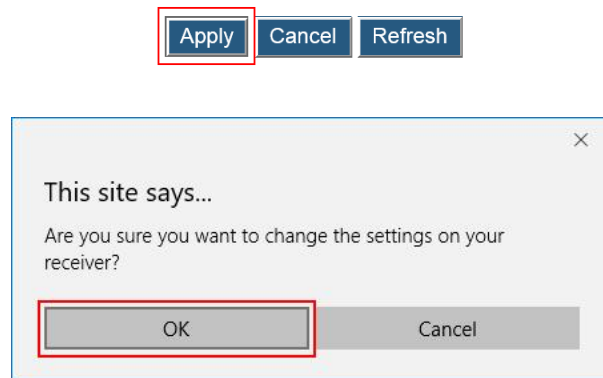
2. Connection Type（接続タイプ）セクションに移動し、Miracast オーバーLAN を Enable（有効）または Disable（無効）に設定します。

Connection Type

Miracast over LAN	☒ Enable	☐ Disable
Airplay mirroring	☒ Enable	☐ Disable
Multicast DNS Discovery	☒ Enable	☐ Disable
BLE Discovery	☐ Enable	☒ Disable
Push mode	☐ Enable	☒ Disable
Chromecast mirroring	☐ Enable	☒ Disable

- 有効：Windows10/11 デバイスがローカルネットワーク経由で投影できるようになります。

- 無効 : Windows 10/11 デバイスは、ローカルネットワーク経由での投影を許可されません。
3. Apply (適用) ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスの OK をクリックして確認します。



1.3.2.2 macOS/iOS デバイスの AirPlay ミラーリングの設定

AirPlay ミラーリング機能を使用すると、macOS/iOS デバイスは OS ネイティブのスクリーンミラーリングを使用してローカルネットワーク上で投影することができます。AirPlay ソースデバイスが ScreenBeam 受信機を検出するには、2 つの方法があります：マルチキャスト DNS ディスカバリーと BLE ディスカバリーです。

以下の条件を満たしていることをご確認ください：

- オペレーティングシステム：macOS 12（またはそれ以降）または iOS 13（またはそれ以降）
- 100M/1000M イーサネットアダプター（オプション、推奨）と Wi-Fi アダプターが利用可能であること。
- 安定したローカルエリアネットワーク
- MacOS/iOS デバイスと ScreenBeam 1100 Plus 受信機が同じ LAN に接続されていること。
- 必要なポート：udp 5353、tcp 47000、tcp 7000、tcp 7100、tcp&udp 18000-18009
 - UDP 5353、マルチキャスト DNS (mDNS) 検出用
 - TCP 47000、AirPlay の Airtune 用
 - TCP 7000、URL を送信する AirPlay 用
 - TCP 7100、AirPlay ミラーリング用
 - TCP&UDP 18000-18009、macOS、iOS AV データ用

macOS/iOS デバイスに AirPlay ミラーリングを設定するには、以下の手順に従ってください：

1. Features（機能）タブをクリックして、Features（機能）タブページに移動します。



2. Connection Type（接続タイプ）セクションに移動し、AirPlay ミラーリングを Enable（有効）または Disable（無効）に設定します。

Connection Type

Miracast over LAN	☒ Enable	☐ Disable
Airplay mirroring	☒ Enable	☐ Disable
Multicast DNS Discovery	☒ Enable	☐ Disable
BLE Discovery	☐ Enable	☒ Disable
Push mode	☐ Enable	☒ Disable
Chromecast mirroring	☐ Enable	☒ Disable

- Enable（有効）：macOS/iOS デバイスは、AirPlay ミラーリングを使用してローカルネットワーク上で投影することができます。デフォルトでは、この機能は有効になっていません。

- Disable (無効) : macOS/iOS デバイスは、AirPlay ミラーリングを使用してローカルネットワーク上に投影することはできません。
3. 導入条件に応じて、マルチキャストDNSディスカバリー機能を有効または無効にします。デフォルトでは、マルチキャストDNS ディスカバリー機能が有効になっており、受信機がUDP ポート 5353 を使用してネットワーク上で AirPlay ディスカバリーをブロードキャストできるようになっています。

Connection Type

Miracast over LAN	☒ Enable	☐ Disable
Airplay mirroring	☒ Enable	☐ Disable
Multicast DNS Discovery	☒ Enable	☐ Disable
BLE Discovery	☐ Enable	☒ Disable
Push mode	☐ Enable	☒ Disable
Chromecast mirroring	☐ Enable	☒ Disable

4. 展開条件に従って、BLE ディスカバリー機能を有効または無効にします。デフォルトでは、BLE ディスカバリー機能は無効になっています。この機能は、Bluetooth を使用して AirPlay ディスカバリーをブロードキャストすることを可能にします。BLE ディスカバリーを介して ScreenBeam 受信機を検出する場合、AirPlay ソースデバイスの Bluetooth がオンになっている必要があります。

Connection Type

Miracast over LAN	☒ Enable	☐ Disable
Airplay mirroring	☒ Enable	☐ Disable
Multicast DNS Discovery	☒ Enable	☐ Disable
BLE Discovery	☐ Enable	☒ Disable
Push mode	☐ Enable	☒ Disable
Chromecast mirroring	☐ Enable	☒ Disable

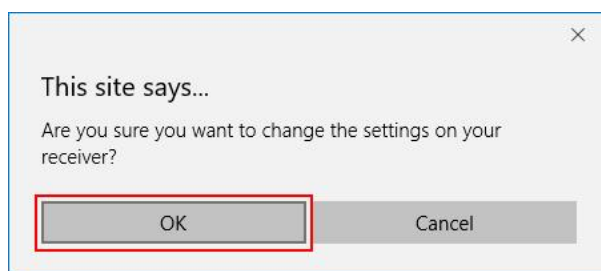
5. ストリーミングアプリがプッシュモードに対応している場合は、Push (プッシュ) モードを有効にします。そうでない場合は、無効にしてください。

注意 : Push mode (プッシュモード) は、ScreenBeam Conference (ScreenBeam 会議) が無効で、受信機の Display Sharing Mode (表示共有モード) が Single (シングル) または Quick Switch (クイックスイッチ) に設定されている場合に使用できます。

Connection Type

Miracast over LAN	☒ Enable	☐ Disable
Airplay mirroring	☒ Enable	☐ Disable
Multicast DNS Discovery	☒ Enable	☐ Disable
BLE Discovery	☐ Enable	☒ Disable
Push mode	☐ Enable	☒ Disable
Chromecast mirroring	☐ Enable	☒ Disable

6. Apply（適用）ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスの OK をクリックして確認します。



1.3.2.3 Chrome OS デバイスおよび Chrome ブラウザ搭載デバイス用の Chromecast ミラーリングの設定

お使いのデバイスは、以下の条件を満たしていれば、ワイヤレス表示用に ScreenBeam に接続できます：

- オペレーティングシステム：Chrome OS 100.x（またはそれ以降）（Cast 付き）、または Chrome ブラウザ（Cast 付き）。
- 100M/1000M イーサネットアダプタ（オプション、ただし推奨）と Wi-Fi アダプタが利用可能です。
- 安定したローカルエリアネットワーク。
- ソース機器と ScreenBeam 1100 Plus 受信機が同じ LAN に接続されていること。

Chrome OS デバイスまたは Chrome ブラウザ搭載デバイスに Chromecast ミラーリングを設定する場合は、以下の手順に従ってください：

1. Features（機能）タブをクリックして、Features（機能）タブページに移動します。



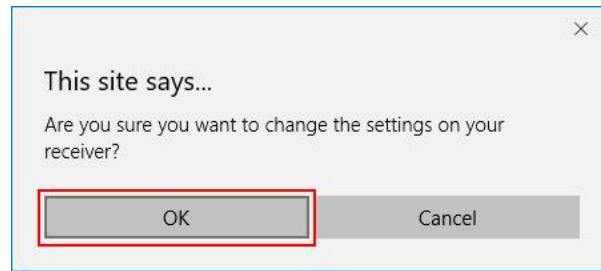
2. Connection Type（接続タイプ）セクションに移動し、Chromecast mirroring ミラーリングを Enable（有効）または Disable（無効）に設定します。
- Enable（有効）：Chrome OS デバイスまたは Chrome ブラウザを搭載したデバイスは、ローカルネットワーク経由での投影が許可されます：Chrome OS デバイスまたは Chrome ブラウザ搭載デバイスは、ローカルネットワーク経由で投影することができます。
 - Disable（無効）：Chrome OS デバイスまたは Chrome ブラウザ搭載デバイスがローカルネットワーク経由で投影することは許可されません。

Connection Type

Miracast over LAN	☒ Enable	☐ Disable
Airplay mirroring	☒ Enable	☐ Disable
Multicast DNS Discovery	☒ Enable	☐ Disable
BLE Discovery	☐ Enable	☒ Disable
Push mode	☐ Enable	☒ Disable
Chromecast mirroring	☐ Enable	☒ Disable

3. Apply（適用）ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスの OK をクリックして確認します。





1.3.3 P2P ワイヤレス設定

このセクションでは、Miracast 接続、P2P 操作チャネル、送信電波強度の設定を紹介します。

1.3.3.1 Miracast 接続の設定

ScreenBeam 1100 Plus では、Miracast 接続を無効または有効にすることができます。

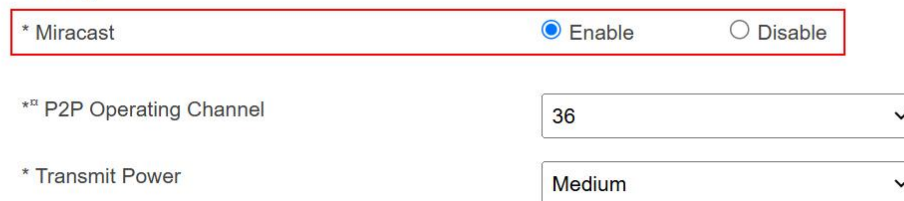
受信機の Miracast 接続を設定する場合は、以下の手順に従ってください：

1. Features（機能）タブをクリックして、Features（機能）タブページに移動します。

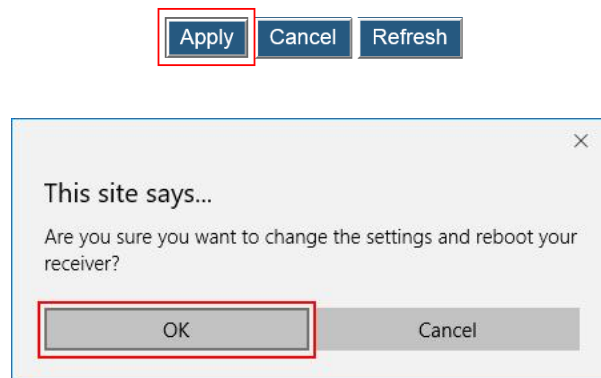


2. P2P Wireless Setting（P2P ワイヤレス設定）セクションに移動し、Miracast を Enable（有効）または Disable（無効）に設定します。デフォルトでは有効になっています。
注意：Miracast が Disable（無効）に設定された場合、Windows と Android の Miracast デバイスは、Wi-Fi Direct を使用してレシーバーに接続することはできません。

P2P Wireless Setting

The screenshot shows the 'P2P Wireless Setting' form. The 'Miracast' setting is set to 'Enable' (radio button selected), which is highlighted with a red box. Below it, the 'P2P Operating Channel' is set to '36' and the 'Transmit Power' is set to 'Medium', both shown in dropdown menus.

3. Apply（適用）ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスの OK をクリックして確認します。



1.3.3.2 P2P 操作チャンネルの設定

ScreenBeam 1100 Plus では、ワイヤレス表示受信機とソース機器間の通信に使用する操作チャンネルを定義することができます。

受信機の動作チャンネルを設定する場合は、以下の手順に従ってください：

1. Features（機能）タブをクリックして、Features（機能）タブページに移動します。



2. P2P Wireless Setting (P2P ワイヤレス設定) セクションに移動し、P2P Operating Channel (P2P 操作チャンネル) ドロップダウンボックスから希望のチャンネルを選択します。

P2P Wireless Setting

* Miracast

☒ Enable

☐ Disable

** P2P Operating Channel

36

* Transmit Power

Medium

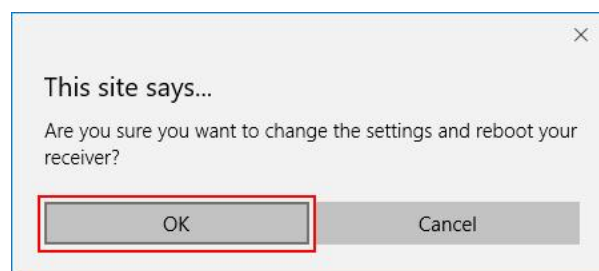
1～13 のチャンネルは 2.4GHz 帯に属し、36～165 のチャンネルは 5GHz 帯に属する。デフォルトでは、チャンネル 36 が使用されます。

チャンネルの有無は、販売地域（国コード）によって異なります。

ネットワーク環境に応じてチャンネルを選択する必要があります。一般的に、よりクリーンなチャンネル（稼働しているデバイスが少ない）の方がパフォーマンスが高くなります。Wi-Fi Analyzer を使用して、クリーンなチャンネルを特定することができます。

注意：ScreenBeam 受信機は、Wi-Fi 直接使用モデルでは使用禁止であるため、動的周波数選択（DFS）チャンネル（50～144）をサポートしていません。ソースデバイスの Wi-Fi アダプタがデュアルバンドで機能しない場合は、ソースデバイスを DFS 対応ルータ（AP）から切断するか、DFS 非対応の AP に接続する必要があります。

3. Apply（適用）ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスの OK をクリックして確認します。



注意：新しい設定は次の接続から有効になります。

1.3.3.3 送信電波強度の設定

ScreenBeam 1100 Plus を使用すると、Miracast 接続用の Wi-Fi アダプターの送信電波強度を弱めたり、強めたりすることができます。

受信機の送信電波強度を設定するには、以下の手順に従います：

1. Features（機能）タブをクリックして、Features（機能）タブページに移動します。



2. P2P Wireless Setting（P2P ワイヤレス設定）セクションに進み、Transmit Power（送信電力）ドロップダウンボックスからオプションを選択します。
送信電波を弱めると、近くのデバイスへの干渉を減らすことができます。送信電波を強めると、送信距離を長くすることができます。

P2P Wireless Setting

* Miracast

☒ Enable

☐ Disable

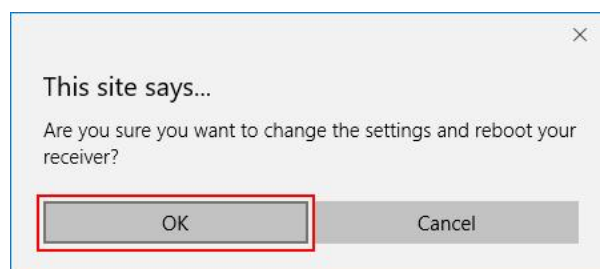
* P2P Operating Channel

36

* Transmit Power

Medium

3. Apply（適用）ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスの OK をクリックして確認します。



4. 受信機が再起動して、新しい設定が有効になります。

1.3.4 セキュリティ設定

このセクションでは、受信機の PIN ペ어링方法について紹介します。

1.3.4.1 PIN ペ어링方法の設定

PIN ペ어링方法の設定は、以下の手順で行います：

1. Features（機能）タブをクリックして、Features（機能）タブページに移動します。



2. Security Setting（セキュリティ設定）セクションに移動し、Force PIN Pairing（PIN 強制ペアリング）機能を「オン」または「オフ」に設定します。

- PIN 強制機能を無効にするには、Off を選択してください。PIN または PBC ペ어링は、ソースデバイスをレシーバーに初めて接続するときに使用されます。
- PIN 強制機能を有効にする場合は、On を選択ください。この場合、毎回または初回に受信機に接続するデバイスに PIN コードを入力する必要があります。

注意：ワイヤレス表示ソースデバイスによっては PIN 入力に対応していない場合があります、このモードが有効になっていると ScreenBeam 受信機と接続できない場合があります。PIN 接続の有効化の詳細については、デバイスのユーザーマニュアルを参照してください。

Security Setting

Note: PIN options are not supported on ChromeOS/Chrome Devices.

A screenshot of the 'Security Setting' configuration page. The 'Force PIN Pairing' option is set to 'On' (radio button selected). Below it, 'Require PIN on' is set to 'First connection' (radio button selected). 'PIN Generation Method' is set to 'Random' (radio button selected). The 'PIN Display Period' is set to '25' in a text input field. A red box highlights the 'Force PIN Pairing' section.

3. PIN ペ어링方法を選択します。

- 毎回の接続：デバイスが受信機に接続する度に PIN を入力する必要があります。
- 初回接続：機器と受信機の初回接続時に PIN の入力が必要です。

Security Setting

Note: PIN options are not supported on ChromeOS/Chrome Devices.

* Force PIN Pairing ☒ On ☐ Off

* Require PIN on ☐ Each connection ☒ First connection

* PIN Generation Method ☐ Static ☒ Random

PIN Display Period

4. PIN 生成方法を選択する。

Force PIN Pairing（強制 PIN ペアリング）機能が有効な場合、システムは 2 つの PIN 生成方法を提供します：Static（静的）と Random（ランダム）です。

- Static（静的）：Static（静的）を選択すると、ユーザーは柔軟に PIN を定義できます。静的 PIN は接続ディスプレイに表示されません。

Security Setting

Note: PIN options are not supported on ChromeOS/Chrome Devices.

* Force PIN Pairing ☒ On ☐ Off

* Require PIN on ☐ Each connection ☒ First connection

* PIN Generation Method ☒ Static ☐ Random

* Static PIN

PIN Display Period

- Random（ランダム）：PIN コードは ScreenBeam によってランダムに生成されて、接続された HDTV/プロジェクターに表示されます。

5. 接続ディスプレイに PIN を表示する期間を定めます。PIN 表示期間の範囲は 25 秒から 120 秒です。

Security Setting

Note: PIN options are not supported on ChromeOS/Chrome Devices.

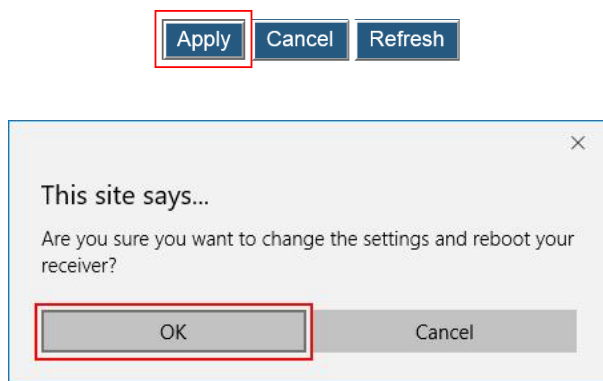
* Force PIN Pairing ☒ On ☐ Off

* Require PIN on ☐ Each connection ☒ First connection

* PIN Generation Method ☐ Static ☒ Random

PIN Display Period

6. Apply（適用）ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスの OK をクリックして確認します。



1.3.5 表示設定

このセクションでは、表示に関する機能を紹介します。

1.3.5.1 表示共有モードの設定

ScreenBeam 1100 Plus は、3つの表示共有モードを取り扱っています：シングルモード、クイックスイッチモード、マルチビューモードです。

表示共有モードを選択する場合は、以下の手順に従ってください：

1. Features（機能）タブをクリックして、Features（機能）タブページに移動します。



2. Display Setting（表示設定）セクションに移動し、Display Sharing Mode（表示共有モード）メニューから希望のオプションを選択します。利用可能なオプションは以下の通りです：Single（シングル）、Quick Switch（クイックスイッチ）、Multi-View（マルチビュー）。

- Single（シングル）：受信機がすでに使用されている場合、他のデバイスは接続できません。
- Quick Switch（クイックスイッチ）：クイック・スイッチ・モードを使用すると、サポートされているデバイスが、現在接続されているデバイスからワイヤレス接続を引き継ぐことができます。引き継ぎ後、以前接続されていたデバイスは切断されます。

対応しているソースには、Miracast ソース、Infracast ソース、AirPlay ソース、HDMI®入力ソースが含まれます。

- Multi-View（マルチビュー）：マルチビューモードでは、最大4つのソースをレシーバーに接続し、同時にテレビに表示することができます。

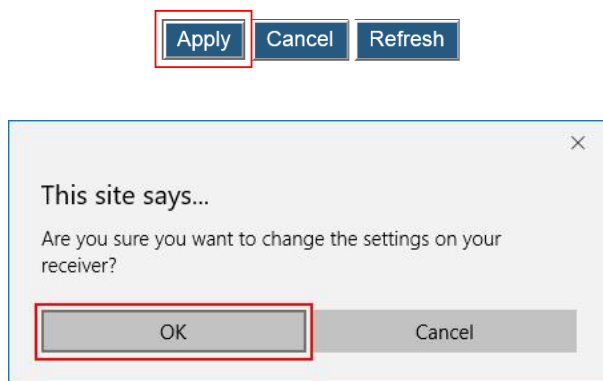
対応しているソースには、Miracast ソース、Infracast ソース、AirPlay ソース、HDMI®入力ソースが含まれます。

注意：4つのワイヤレス表示ソースが接続されている場合でも、HDMI®入力は許可されています。最後に接続されたワイヤレス表示ソースは、表示象限上の HDMI®入力ソースに引き継がれますが、バックグラウンドでは接続されたままになります。詳細については、**4.3 HDMI®出力の動作**を参照してください。

Display Setting



3. Apply (適用) ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスの OK をクリックして確認します。



1.3.5.2 クイックスイッチ/マルチビューの受信機名表示の設定

ScreenBeam 1100 Plus を使用すると、クイックスイッチまたはマルチビューモードの受信機名 称表示をカスタマイズすることができます。

受信機名の表示を設定する場合は、以下の手順に従ってください：

1. Features（機能）タブをクリックして、Features（機能）タブページを開きます。



2. Display Setting（表示設定）セクションに移動し、Display Sharing Mode（表示共有モード）が Quick Switch（クイックスイッチ）または Multi-View（マルチビュー）に設定されていることを確認します。

3. Show Receiver Name（受信者名の表示）を Always（常に表示）に設定します。

Show Receiver Name（受信者名の表示）機能には、以下の 2 つのオプションがあります：

- Always（常に表示）：アクティブな接続セッションが存在する場合、接続テレビに受信機名が表示されます。
- Don't show（表示しない）：受信機名は、アクティブな接続セッションが存在する場合、接続テレビに表示されません。

注意：このオプションを選択した場合、受信機名の配置は利用できません。

Display Setting

Display Sharing Mode: Quick Switch

Show Receiver Name: ☒ Always ☐ Don't show

Receiver Name Placement: Bottom Left

4. Receiver Name Placement（受信機名の配置）ドロップダウン・ボックスからオプションを選択します。

Display Setting

Display Sharing Mode: Quick Switch

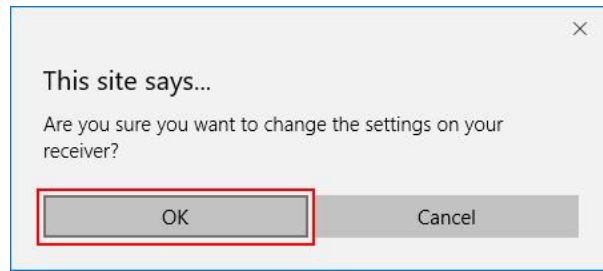
Show Receiver Name: ☒ Always ☐ Don't show

Receiver Name Placement: Bottom Left

ScreenBeam network and status information

Connect instructions

5. Apply（適用）ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスの OK をクリックして確認します。



1.3.5.3 受信機のアイドル画面での情報表示の設定

受信機のアイドル画面への情報表示を設定する場合は、以下の手順に従ってください：

1. Features（機能）タブをクリックし、Features（機能）タブページに移動します。



2. Display Setting（表示設定）セクションに移動し、ScreenBeam network and status information（ScreenBeam ネットワークとステータス情報）メニューから希望のオプションを選択します。利用可能なオプションは次のとおりです：Display all,（すべて表示）、Display minimal（最小表示）、Display none（表示なし）。
 - Display all（すべて表示）：受信機は、接続ディスプレイにすべてのネットワークとステータス情報を表示します。
 - Display minimal（最小表示）：接続ディスプレイにローカル Wi-Fi 情報を表示します。
 - Display none（表示なし）：接続したディスプレイにネットワークとステータス情報を表示しません。

Display Setting

A screenshot of the 'Display Setting' configuration page. It includes a 'Display Sharing Mode' dropdown set to 'Single'. A red box highlights the 'ScreenBeam network and status information' section, which contains a dropdown menu with options: 'Display all' (selected), 'Display all', 'Display minimal', and 'Display none'. Below this are two toggle switches: 'Connect instructions' (set to Show), 'Show "Connect to WiFi" instructions' (set to Show), and 'Show "Help URL" instructions' (set to Show). Each toggle has 'Show' and 'Hide' radio button options.

3. Connection instructions（接続指示）を Show（表示）または Hide（非表示）に設定します。
 - Show（表示する）：受信機のアイドル画面に Wi-Fi 接続と受信機の接続方法が表示されます。
 - Hide（隠す）：受信機のアイドル画面に Wi-Fi 接続と受信機の接続指示が表示されなくなります。

Display Setting

Display Sharing Mode	Single ▼	
ScreenBeam network and status information	Display all ▼	
Connect instructions	☒ Show	☐ Hide
Show "Connect to WiFi" instructions	☒ Show	☐ Hide
Show "Help URL" instructions	☒ Show	☐ Hide

4. Show “Connect to WiFi” instructions (「WiFi に接続」の指示を表示) を Show (表示) または Hide (非表示) に設定します。
- Show (表示) : 受信機のアイドル画面に Wi-Fi 接続指示が表示されます。
 - Hide (非表示) : 受信機のアイドル画面に Wi-Fi 接続指示が表示されません。

Display Setting

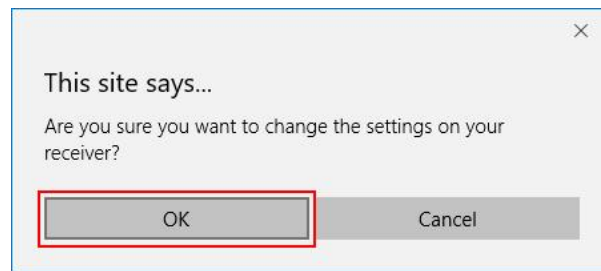
Display Sharing Mode	Single ▼	
ScreenBeam network and status information	Display all ▼	
Connect instructions	☒ Show	☐ Hide
Show "Connect to WiFi" instructions	☒ Show	☐ Hide
Show "Help URL" instructions	☒ Show	☐ Hide

5. Show “Help URL” instructions (「ヘルプ URL」の指示を表示) を Show (表示) または Hide (非表示) に設定します。
- Show (表示) : 受信機のアイドル画面にヘルプ URL 情報が表示されます。
 - Hide (非表示) : 受信機のアイドル画面にヘルプ URL 情報を表示しません。

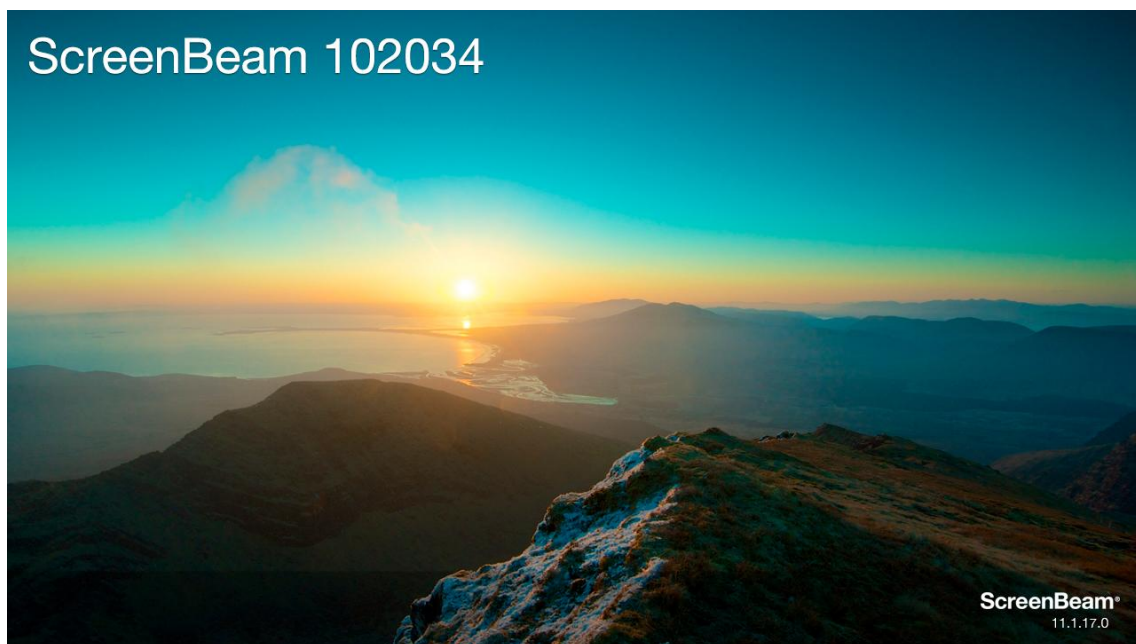
Display Setting

Display Sharing Mode	Single ▼	
ScreenBeam network and status information	Display all ▼	
Connect instructions	☒ Show	☐ Hide
Show "Connect to WiFi" instructions	☒ Show	☐ Hide
Show "Help URL" instructions	☒ Show	☐ Hide

6. Apply (適用) ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスの OK をクリックして確認します。



以下は、これらの情報をすべて非表示に設定した後の例です。



1.3.5.4 受信機のアイドル画面への日時表示の設定

受信機のアイドル画面における日時表示の設定は、以下の手順で行ってください：

1. Features（機能）タブをクリックして、Features（機能）タブページを開きます。



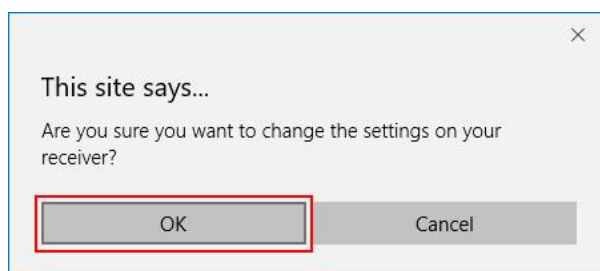
2. Display Setting（表示設定）セクションに移動し、Show time & date onscreen（画面上に時刻と日付を表示する）を Show（表示）または Hide（非表示）に設定します。

- Show（表示）：受信機のアイドル画面に日付と時刻が表示されます。
- Hide（非表示）：受信機のアイドル画面に日時が表示されなくなります。

Display Setting

* Display Sharing Mode	Single
ScreenBeam network and status information	Display all
Connect instructions	☒ Show ☐ Hide
Show "Connect to WiFi" instructions	☒ Show ☐ Hide
Show "Help URL" instructions	☒ Show ☐ Hide
Show time & date onscreen	☒ Show ☐ Hide
Show passphrase key for Local Wi-Fi onscreen	☒ Show ☐ Hide

3. Apply（適用）ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスの OK をクリックして確認します。



Show time & date onscreen（画面上に時刻と日付を表示する）が Show（表示）に設定されている場合、受信機のアイドル画面に時刻と日付が表示されます。

ScreenBeam 102034

08:29 AM
Friday, Sep 23

- Connect to a Wi-Fi:

Internal Network
TestAP01_5G
AP-102034
Key: screenbeam

- Project to **ScreenBeam 102034**

 **Windows:** Connect with Miracast by pressing  + K

 **iOS or macOS:** Connect with AirPlay

To use the in-room conferencing system,
connect with *ScreenBeam Conference*

Download screenbeam.com/getconference

Need help connecting? <https://www.screenbeam.com/help>

Ethernet: Connected
IP: 192.168.1.112

Wireless: Connected
IP: 192.168.2.105

Miracast P2P: AGO
Channel: 36 (US)

Management: LMI
Access: <https://192.168.1.112>

MultiBeam: Disable
Status: Not configured

ScreenBeam®
11.1.17.0

1.3.5.5 受信機のアイドル画面にローカル Wi-Fi のパスワードを表示する設定

受信機のアイドル画面にローカル Wi-Fi のパスワードを表示/非表示する場合は、以下の手順で設定してください：

1. Features（機能）タブをクリックして、Features（機能）タブページに移動します。



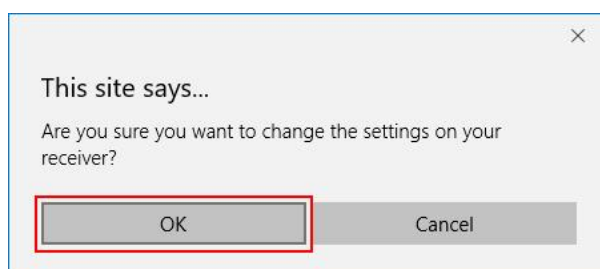
2. Display Setting（表示設定）セクションに移動し、Show passphrase key for Local Wi-Fi onscreen（ローカル Wi-Fi のパスフレーズキーを画面に表示する）を Show（表示する）または Hide（隠す）に設定します。

- Show（表示）：受信機のアイドル画面にローカル Wi-Fi のパスワードが表示されます。
- Hide（非表示）：受信機のアイドル画面にローカル Wi-Fi のパスワードを表示しません。

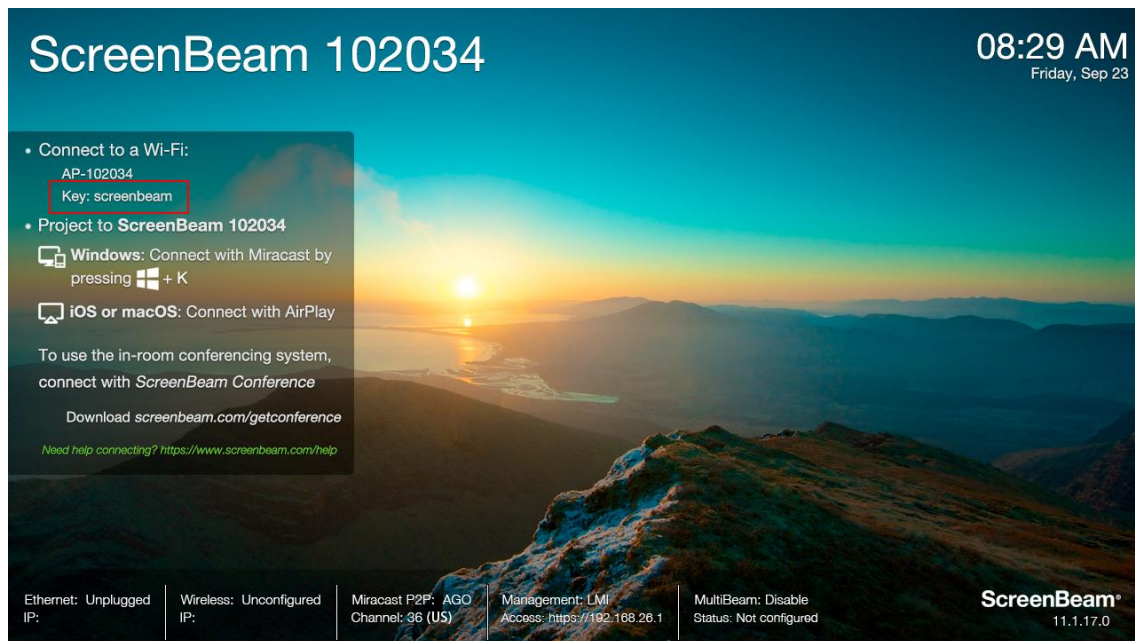
Display Setting

* Display Sharing Mode	Single
ScreenBeam network and status information	Display all
Connect instructions	☒ Show ☐ Hide
Show "Connect to WiFi" instructions	☒ Show ☐ Hide
Show "Help URL" instructions	☒ Show ☐ Hide
Show time & date onscreen	☒ Show ☐ Hide
Show passphrase key for Local Wi-Fi onscreen	☒ Show ☐ Hide

3. Apply（適用）ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスの OK をクリックして確認します。



ローカル Wi-Fi のパスワードは、Show passphrase key for Local Wi-Fi onscreen (ローカル Wi-Fi のパスフレーズキーを画面に表示する) が Show (表示) に設定されている場合、受信機のアイドル画面に表示されます。



1.3.5.6 受信機のアイドル画面に Wi-Fi QR コードを表示する設定

受信機のアイドル画面に Wi-Fi QR コードを表示/非表示する場合は、以下の手順に従ってください：

1. Features (機能) タブをクリックして、Features (機能) タブページを開きます。



2. Display Setting (表示設定) セクションに移動し、Show Wi-Fi QR code onscreen (画面に Wi-Fi QR コードを表示する) を Show (表示) または Hide (非表示) に設定します。

- Show (表示)：受信機のアイドル画面に Wi-Fi QR コードが表示されます。
- Hide (隠す)：受信機のアイドル画面に Wi-Fi QR コードは表示されません。

Display Setting

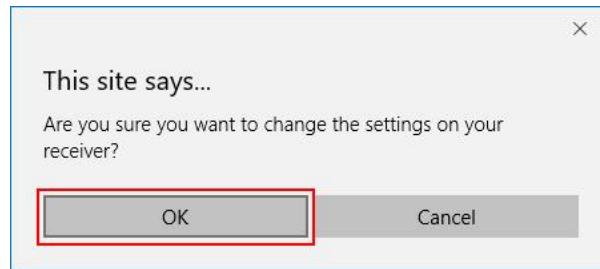
* Display Sharing Mode	Single
ScreenBeam network and status information	Display all
Connect instructions	☒ Show ☐ Hide
Show "Connect to WiFi" instructions	☒ Show ☐ Hide
Show "Help URL" instructions	☒ Show ☐ Hide
Show time & date onscreen	☒ Show ☐ Hide
Show passphrase key for Local Wi-Fi onscreen	☒ Show ☐ Hide
Show Wi-Fi QR code onscreen	☒ Show ☐ Hide

3. Select the Wi-Fi for QR code generation (QR コード生成用 Wi-Fi の選択) ボックスからオプションを選択します：Local Wi-Fi Hotspot (ローカル Wi-Fi ホットスポット) または Wi-Fi Network (Wi-Fi ネットワーク)。

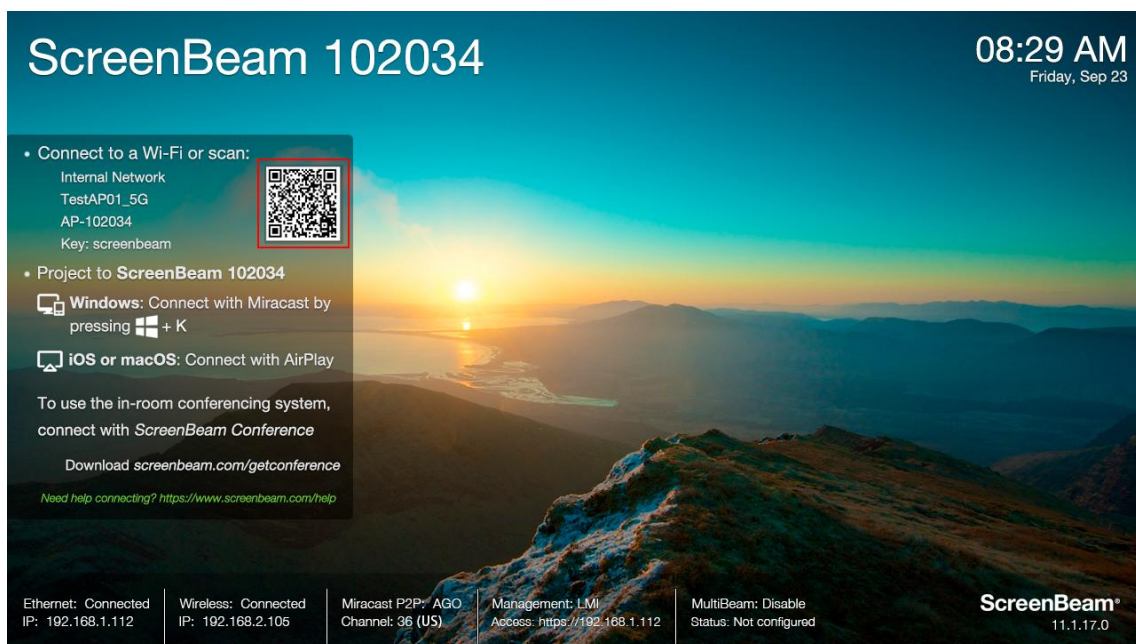
- Local Wi-Fi Hotspot (ローカル Wi-Fi ホットスポット)：受信機のローカル Wi-Fi の QR コードが表示されます。
- Wi-Fi Network (Wi-Fi ネットワーク)：受信機が接続している Wi-Fi の QR コードが表示されます。

Show Wi-Fi QR code onscreen	☒ Show ☐ Hide
Select the Wi-Fi for QR code generation	Local Wi-Fi Hotspot Local Wi-Fi Hotspot Wi-Fi Network
HDMI/VGA Port Power Management	

4. Apply (適用) ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスの OK をクリックして確認する。



Show Wi-Fi QR code onscreen (画面に Wi-Fi QR コードを表示) が Show (表示) に設定されている場合、選択した Wi-Fi の QR コードが受信機のアイドル画面に表示されます。



1.3.5.7 HDMI®ポート出力の管理

HDMI® ポート出力を設定する場合は、以下の手順に従ってください：

1. Features（機能）タブをクリックして、Features（機能）タブページに移動します。



2. Display Setting（表示設定）セクションに移動し、HDMI/VGA Port Power management（HDMI/VGA ポート電源管理）ドロップダウンボックスから希望のオプションを選択します。利用可能なオプションは次のとおりです：常時オン、スクリーンセーバー、表示オフ。

Display Setting

* Display Sharing Mode	Single
ScreenBeam network and status information	Display all
Connect instructions	☒ Show ☐ Hide
Show "Connect to WiFi" instructions	☒ Show ☐ Hide
Show "Help URL" instructions	☒ Show ☐ Hide
Show time & date onscreen	☒ Show ☐ Hide
Show passphrase key for Local Wi-Fi onscreen	☒ Show ☐ Hide
Show Wi-Fi QR code onscreen	☐ Show ☒ Hide
HDMI/VGA Port Power Management	Always On
Wake Up	Always On Screensaver Display Off ScreenBeam USB Pro Switch
Adjust TV Screen Size	25

Allow source

- Always On（常時オン）：このオプションを選択すると、HDMI® 出力は常にオンになります。
- Screensaver（スクリーンセーバー）：このオプションを選択すると、定義されたアイドル時間が経過した後、システムはスクリーンセーバーを実行します。ユーザーは、Wait（待機）時間ボックスでアイドル時間（1～9999 秒）を設定することができます。

HDMI/VGA Port Power Management	Screensaver
Wait	180

- Display Off (表示オフ) : このオプションを選択すると、定義されたアイドル時間が経過した後、HDMI® 出力がオフになります。ユーザーは、待機時間ボックスでアイドル時間 (1~9999 秒) を設定できます。



HDMI/VGA Port Power Management

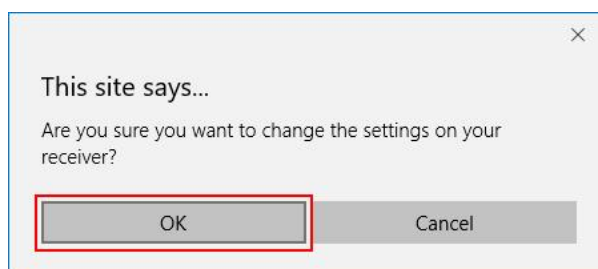
Display Off

Wait 180

- ScreenBeam USB Pro Switch (ScreenBeam USB プロスイッチ) : ScreenBeam USB Pro Switch (ScreenBeam USB プロスイッチ) と連動し、会議室内機器 (会議室内カメラ、会議室内マイク、会議室内スピーカーなど) と連動します。
3. Apply (適用) ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスの OK をクリックして確認します。



Apply Cancel Refresh



This site says...

Are you sure you want to change the settings on your receiver?

OK Cancel

1.3.5.8 受信機のウェークアップ

受信機がスクリーンセーバーを実行している場合、または HDMI® ポート出力がオフになっている場合、スキャンと接続の 2 つのいずれかのイベントによってウェークアップすることができます。

注意：Wake Up（ウェークアップ）機能は、HDMI/VGA Port Power management（HDMI/VGA ポートの電源管理）が Screensaver（スクリーンセーバー）または Display Off（表示オフ）に設定されている場合に使用できます。

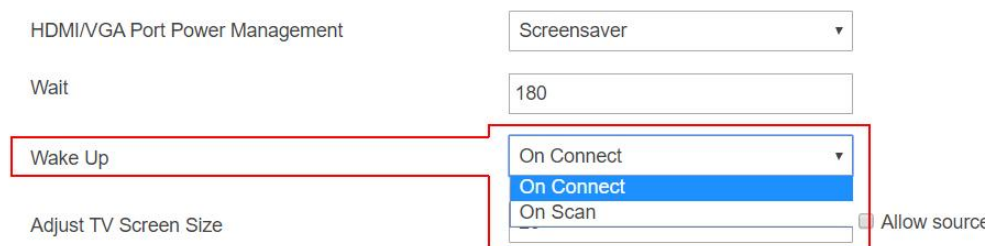
受信機のウェークアップ機能を設定する場合は、以下の手順に従ってください：

1. Features（機能）タブをクリックして、Features（機能）タブページに移動します。

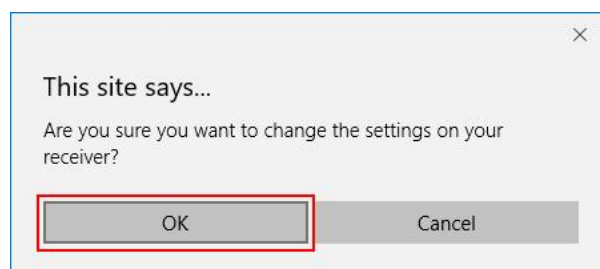


2. Display Setting（表示設定）セクションに移動し、Wake Up（ウェイクアップ）機能を On Scan（スキャン時）または On Connect.（接続時）に設定します。

- On Connect（接続時）：ソースデバイスが接続されている場合にのみ、受信機はスリープまたはスクリーンセーバーから起動します。
- On Scan（スキャン時）：受信機は、ソースデバイスがスキャン中であることを検出すると、スリープまたはスクリーンセーバーから起動します。



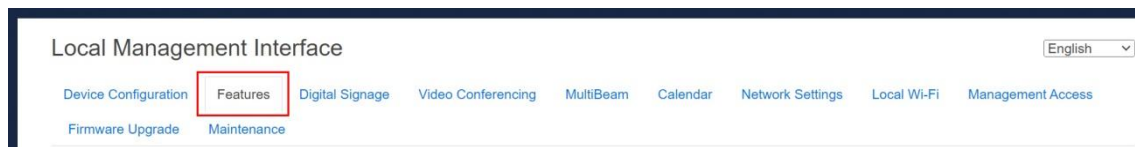
3. Apply（適用）ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスの OK をクリックして確認します。



1.3.5.9 テレビ画面のサイズを調整する

テレビの画面サイズを調整する場合は、以下の手順に従ってください：

1. Features（機能）タブをクリックして、Features（機能）タブページに移動します。

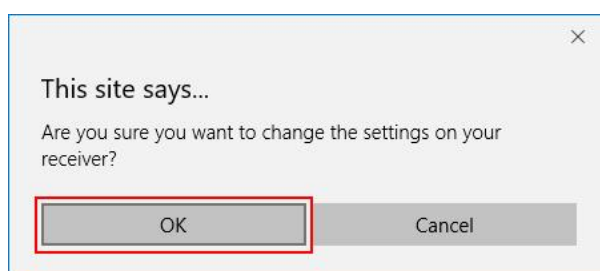


2. Display Setting（表示設定）セクションに移動し、Adjust TV Screen Size（テレビ画面サイズの調整）ドロップダウンボックスから希望のオプションを選択します。

- TV 画面サイズの値の範囲は 0～25 です。値が大きいほど、画面が大きくなります。
- Allow source device to override overscan value（ソースデバイスによるオーバースキャン値のオーバーライドを許可する）：このオプションを有効（チェック）にすると、オーバースキャン値がソースデバイスの設定と同じになります。そうしない場合、オーバースキャン値は受信機の設定と同じになります。



3. Apply（適用）ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスの OK をクリックして確認します。



1.3.5.10 HDMI-CEC の設定

HDMI-CEC 機能を設定する場合は、次の手順に従ってください：

1. Features（機能）タブをクリックして、Features（機能）タブページに移動します。



2. Display Setting（表示設定）セクションに移動し、HDMI-CEC 機能を On（オン）または Off（オフ）に設定します。

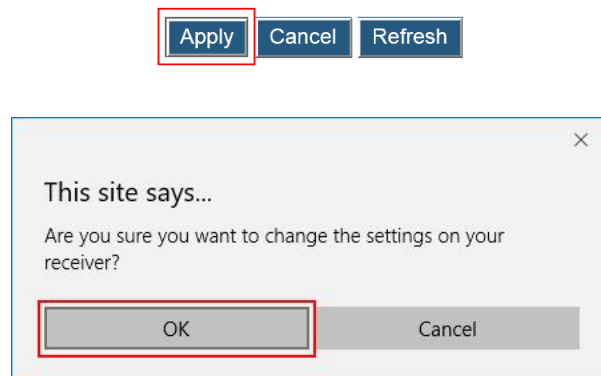
この機能を有効にすると、受信機は接続されたディスプレイデバイスをウェークアップすることができ、ディスプレイデバイスは受信機が接続するソースに切り替わります。
注意：表示デバイスが HDMI-CEC をサポートし、この機能がオンになっている必要があります。

表示デバイスは、以下のいずれかの状態でウェークアップされます：

- 受信機の電源がオンになったとき。
- 受信機への接続が確立されたとき。
- パワーオン受信機が表示デバイスに接続されたとき。



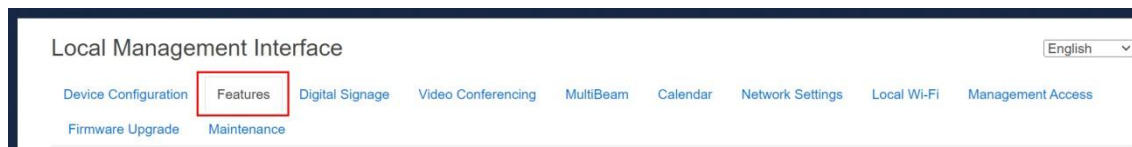
3. Apply（適用）ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスの OK をクリックして確認します。



1.3.5.11 受信機の背景画像を更新する

受信機の背景を更新する場合は、以下の手順に従ってください：

1. Features（機能）タブをクリックして、Features（機能）タブページに移動します。

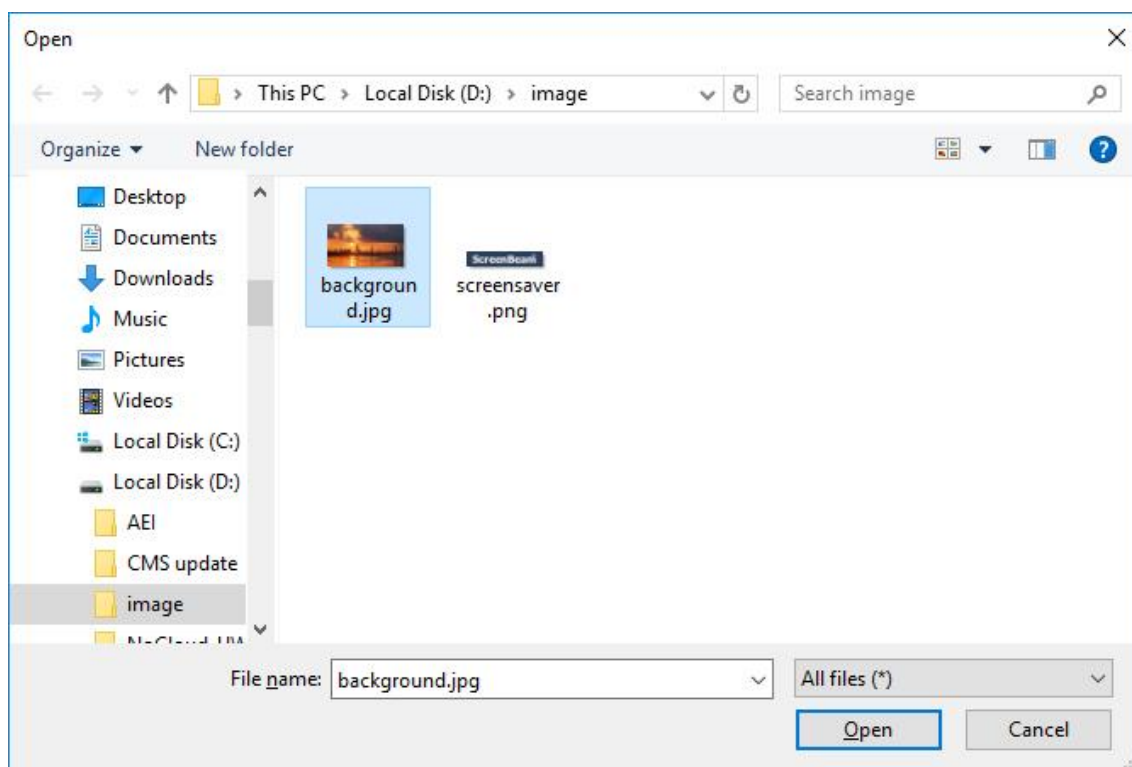


2. Display Setting（表示設定）セクションに移動し、Background Image（背景画像）ボックスの横にある Browse（参照）ボタンをクリックします。

Background Image [PNG/JPG. 2.5MB max. 1280x720 best](#)

3. Open（開く）ウィンドウが表示されます。背景用の画像を選択し、Open（開く）ボタンをクリックして確定します。

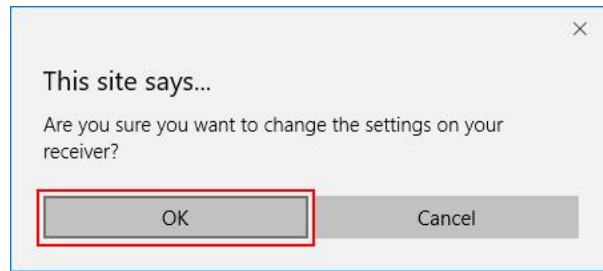
- 画像は、.png および .jpeg/.jpg 形式で入力してください。
- ファイルサイズは 2.5MB 以下にしてください。
- 画像サイズは 1280*720 ピクセル（幅×高さ）が最適です。



4. Apply（適用）ボタンをクリックして、背景画像を受信機にアップロードします。



5. 確認メッセージが表示されます。OK をクリックして続行してください。

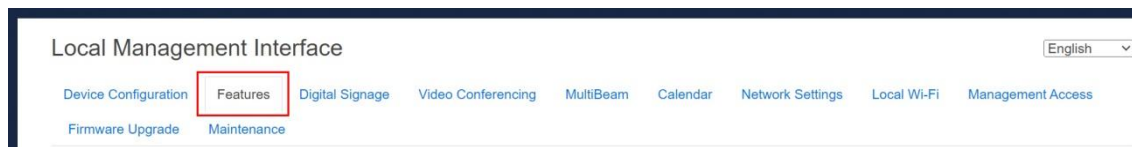


6. しばらくすると背景画像が更新され、接続したディスプレイで確認することができます。

1.3.5.12 受信機のスクリーンセーバー画像の更新

受信機のスクリーンセーバーを更新する場合は、以下の手順に従ってください：

1. Features（機能）タブをクリックして、Features（機能）タブページに移動します。

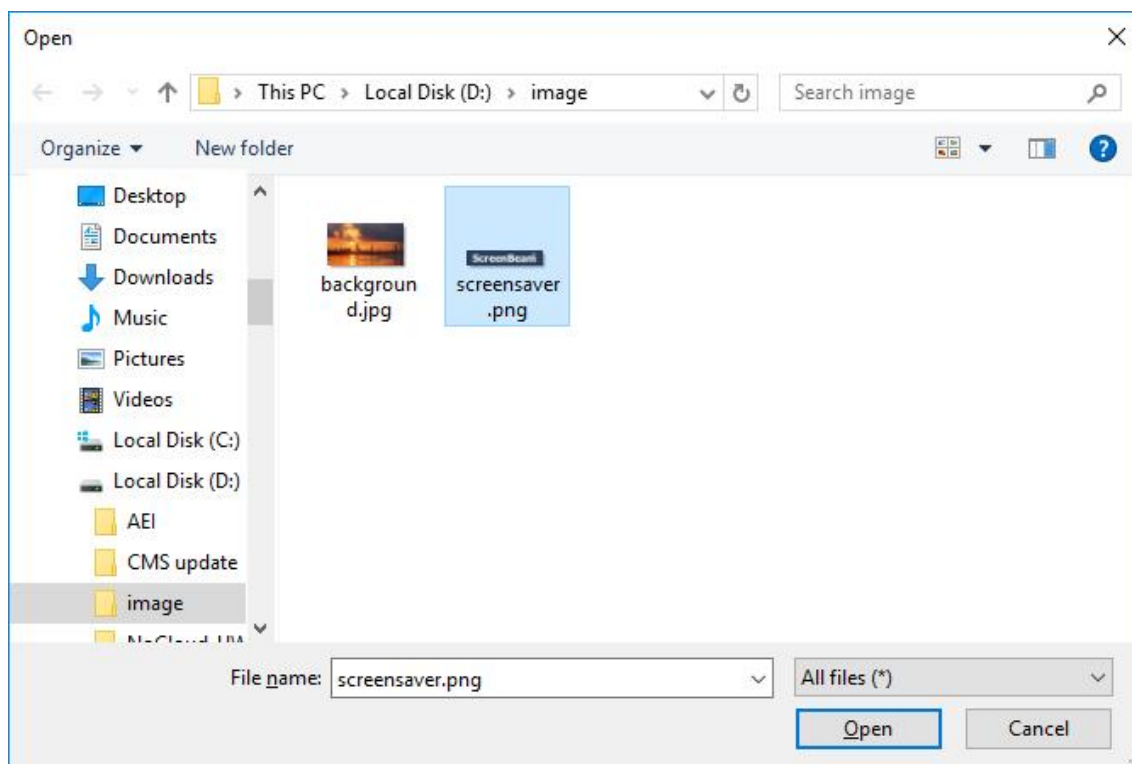


2. Display Setting（表示設定）セクションに移動し、Screen Saver Image（スクリーンセーバー画像）ボックスの横にある Browse（参照）ボタンをクリックします。



3. Open（開く）ウィンドウが表示されます。スクリーンセーバー用の画像を選択し、Open（開く）ボタンをクリックして確定します。

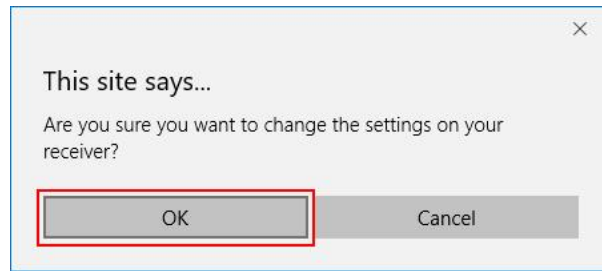
- 画像は .png 形式で入力してください。
- ファイルサイズは 200 KB を超えてはなりません。
- 画像サイズは 300*60 ピクセルが最適です。



4. Apply（適用）ボタンをクリックして、スクリーンセーバー画像を受信機にアップロードします。



5. 確認メッセージが表示されます。OK をクリックして続行します。



6. しばらく経つと、スクリーンセーバーの画像が更新されます。スクリーンセーバーの実行中に、接続ディスプレイで確認できます。

1.3.6 デジタルサイネージ設定

ScreenBeam 受信機のデジタルサイネージモードは、表示画面をデジタルサイネージプレーヤーとして利用することができます。

受信機のデジタルサイネージモードを設定する場合は、次の手順に従ってください：

1. Digital Signage (デジタルサイネージ) タブをクリックして、Digital Signage (デジタルサイネージ) タブページに移動します。



2. デジタルサイネージのオプションを適切に設定しましょう。

- Digital Signage (デジタルサイネージ) : Enable (有効) を選択するとデジタルサイネージ機能がオンになり、Disable (無効) を選択するとこの機能がオフになります。
- Display Mode (表示モード) : Framed (フレーム付き) を選択すると、サイネージはフレーム付きウィンドウに表示され、インターネット接続、ワイヤレス表示指示、受信機名などの情報も表示されます。Fullscreen (フルスクリーン) を選択すると、サイネージは全画面で表示され、受信機名のみが表示されます。
- Hide all information (すべての情報を隠す) : 受信者情報は、Enable (有効) を選択すると非表示になり、Disable (無効) を選択すると表示されます。
- Source URL (ソース URL) : ソースコンテンツの URL。
デジタルサイネージは、HTML5/CSS/JavaScript を使用したコンテンツ配信に対応しています：
 - Chromium エンジンのみ (最新の Android で利用可能)
 - 最大 4096x2160/3840x2160 @ 30fps の H.264 ビデオ
 - オーディオ MP3、AAC-LC、HE-AAC v1/v2
 - 静止画像 JPG、PNG、GIF
 - ウェブ GL

すべてのコンテンツは、ユーザーが Android Webview で閲覧可能かどうかをテストし、その適合性を検証する必要があります。

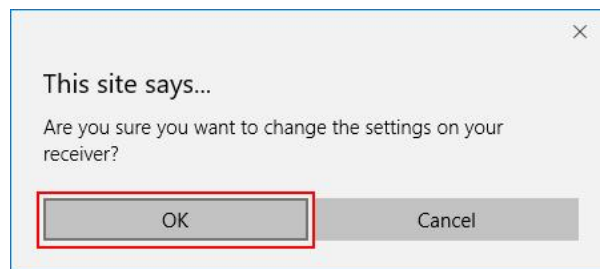
- Restart Delay (再起動遅延) (秒) : ワイヤレスディスプレイ接続終了後、または受信機の再起動後にサイネージ再生を再開するまでの遅延時間です。遅延時間の範囲は 10~1000 秒です。
- Digital Signage Update Frequency (デジタルサイネージ更新頻度) : 受信機がソース URL からコンテンツを再読み込みする頻度を設定できます。設定可能なオプションは、更新なし、5 分、24 時間です。
- Digital Signage Audio Volume (デジタルサイネージオーディオボリューム) : デジタルサイネージの再生音量を設定します。現在利用可能なオプションは、ミュート、低、中、高です。

Digital Signage Mode

Digital signage mode is compatible with HTML5-based signage. ScreenBeam receiver should be tested with stream to en

Digital Signage	☒ Enable ☐ Disable
Display Mode	☐ Framed ☒ Fullscreen
Hide all information	☐ Enable ☒ Disable
Source URL	
Restart Delay(seconds)	10
Digital Signage Update Frequency	No update
Digital Signage Audio Volume	Mute

3. Apply (適用) ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスの OK をクリックして確認します。



1.3.7 ネットワーク設定

このセクションでは、ローカル Wi-Fi ネットワークモード、CMS インターフェース/インターネット WAN インターフェースの割り当て、イーサネット/ワイヤレスインターフェースの接続と TCP/IP 設定など、ネットワーク接続に関する設定を紹介します。

1.3.7.1 ローカル Wi-Fi ネットワークモードの設定

受信機は、LAN を介したワイヤレス表示と受信機管理を行うために、ローカル Wi-Fi ネットワークを提供します。このネットワークは、受信機のイーサネットまたはワイヤレスインターフェースを介して外部ネットワークにルーティングすることができ、これによってローカル Wi-Fi に接続するデバイスはインターネットにアクセスすることができます。

受信機のローカル Wi-Fi ネットワークモードを設定する場合は、以下の手順に従ってください：

1. Network Settings (ネットワーク設定) タブをクリックして、Network Settings (ネットワーク設定) タブページを開きます。



2. Local Wi-Fi Network (ローカル Wi-Fi ネットワーク) セクションに移動し、Select Network Mode (ネットワークモードの選択) ボックスからオプションを選択します。3つのオプションがあります：NAT、ブリッジ、なしです。

- NAT：受信機のローカル Wi-Fi ネットワークが、NAT 方式でイーサネットまたはワイヤレスインターフェイスが接続するネットワークにルーティングされます。
- Bridge (ブリッジ)：受信機のローカル Wi-Fi ネットワークがブリッジ方式でイーサネットまたはワイヤレスインターフェイスが接続するネットワークにルーティングされます。
- None (なし)：受信機のローカル Wi-Fi ネットワークは、イーサネットまたはワイヤレスインターフェイスが接続するネットワークにルーティングされません。

Local Wi-Fi Network



3. Block communication to devices on the LAN (LAN 上の機器へのブロック通信) を Enable (有効) または Disable (無効) に設定します。デフォルトでは無効に設定されています。

- Enable (有効)：受信機のローカル Wi-Fi に接続するデバイスとの通信がブロックされ、受信機のローカル Wi-Fi に接続するデバイスは、受信機が接続する AP に接続するデバイスを確認することができません。
- Disable (無効)：受信機のローカル Wi-Fi に接続するデバイスへの接続がブロックされません。そのため、受信機のローカル Wi-Fi に接続するデバイスは、受信機

が接続する AP に接続するデバイスを確認することができます。

注意：この機能は、ネットワークモードが NAT に設定されている場合に使用できます。

Local Wi-Fi Network

* Select network mode

NAT

Block communication to devices on the LAN

☐ Enable

☒ Disable

4. Apply (適用) ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスの OK をクリックして確認します。

Apply

Cancel

Refresh

This site says...

Are you sure you want to change the settings and reboot your receiver?

OK

Cancel

1.3.7.2 CMS 接続用インターフェースの設定

ScreenBeam 1100 Plus では、CMS 接続用のインターフェースをカスタマイズできます。

CMS 接続用インターフェースを設定する場合は、以下の手順に従ってください：

1. Network Settings (ネットワーク設定) タブをクリックして、Network Settings (ネットワーク設定) タブページを開きます。



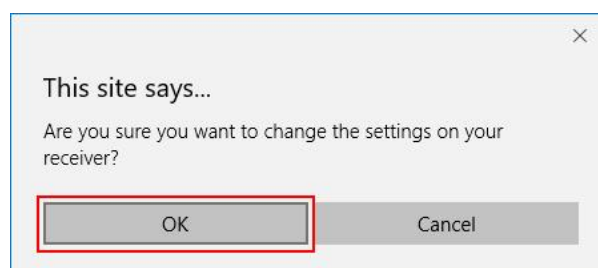
2. Interface Feature Assignment (インターフェース機能の割り当て) セクションに移動し、Select Internet CMS Interface (インターネット CMS インターフェースの選択) ボックスからオプションを選択します。利用可能なオプションは以下のとおりです：自動、イーサネット、ワイヤレス。

- Auto (自動)：受信機は CMS に接続するインターフェースを自動的に選択します。
- Ethernet (イーサネット)：受信機はイーサネットインターフェースのみを使用して CMS に接続します。
- Wireless (ワイヤレス)：ワイヤレスインターフェースのみを使用して CMS に接続します。

Interface Feature Assignment



3. Apply (適用) ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスの OK をクリックして確認します。



1.3.7.3 インターネット WAN インターフェースの設定

受信機のローカル Wi-Fi は、インターネットアクセスのために受信機の有線または無線インターフェースにルーティングすることができます。

インターネット接続用のインターフェースを設定する場合は、以下の手順に従ってください：

1. Network Settings (ネットワーク設定) タブをクリックして、Network Settings (ネットワーク設定) タブページを開きます。



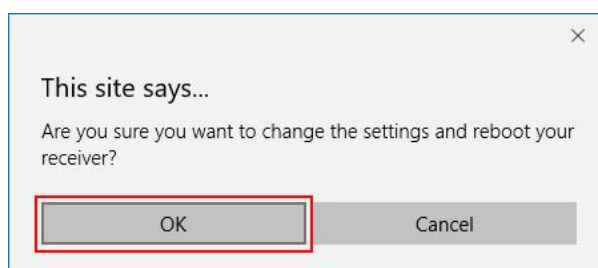
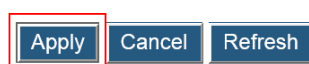
2. Interface Feature Assignment (インターフェース機能の割り当て) セクションに移動し、Select Internet WAN Interface (インターネット WAN インターフェースの選択) ボックスからオプションを選択します。2つのオプションがあります：イーサネットとワイヤレスです。

- Ethernet (イーサネット)：受信機は、インターネットアクセス用にローカル Wi-Fi をイーサネットインターフェースに経由します。
- Wireless (ワイヤレス)：受信機は、インターネットアクセス用にローカル Wi-Fi をワイヤレスインターフェースに経由します。

Interface Feature Assignment

A screenshot of the 'Interface Feature Assignment' section. It shows a 'Select CMS Interface' dropdown set to 'Auto'. Below it, a red box highlights the '* Select Internet WAN Interface' label and a dropdown menu. The dropdown menu is open, showing 'Ethernet' (selected and highlighted in blue) and 'Wireless' options.

3. Apply (適用) ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスの OK をクリックして確認します。

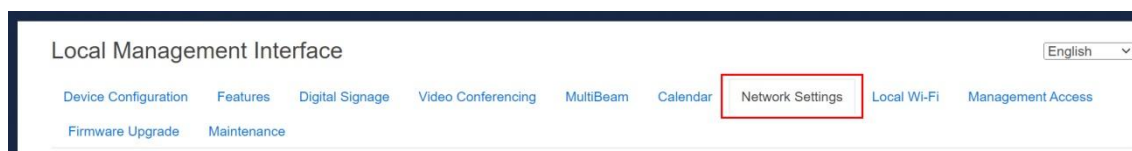


1.3.7.4 イーサネットインターフェースのネットワーク名の変更

イーサネットインターフェースのネットワーク名を変更することで、受信機がどのイーサネットネットワークに接続しているかユーザーに知らせることができます。

イーサネットインターフェースのネットワーク名を変更する場合は、以下の手順に従ってください：

1. Network Settings（ネットワーク設定）タブをクリックして、Network Settings（ネットワーク設定）タブページを開きます。



2. Network Interface Settings（ネットワークインターフェイス設定）>Ethernet Interface（イーサネットインターフェイス）に進み、Network Name（ネットワーク名）の名前を変更します。

ネットワーク名に使用可能な文字は以下のとおりです：A-Z、a-z、0-9、および_です。

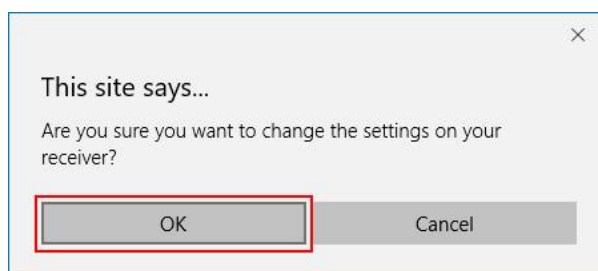
ネットワーク名の長さは1～16文字です。

Network Interface Settings

Ethernet Interface

Network Name	Internal network
--------------	------------------

3. Apply（適用）ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスの OK をクリックして確認します。



1.3.7.5 受信機の IP アドレスの設定

受信機は、ネットワーク接続用にイーサネットとワイヤレスの両方のインターフェースを備えています。これらのインターフェースには、個別の IP 設定が必要です。デフォルトでは、受信機は IP アドレスを自動的に取得するように設定されています。ご使用のネットワークに DHCP サーバーがあることを確認してください。

イーサネットとワイヤレスインターフェースの IP 設定手順は同じです。

受信機の IP アドレスを設定する場合は、以下の手順に従ってください：

1. Network Settings (ネットワーク設定) タブをクリックして、Network Settings (ネットワーク設定) タブページに移動します。



2. Network Interface Settings (ネットワークインターフェース設定) > TCP/IP Setting (TCP/IP 設定) に進み、IP Assignment (IP 割り当て) を Auto (自動) または Static (静的) に設定します。
 - Auto (自動) : 受信機は DHCP サーバーによって IP アドレスが割り当てられます。
 - Static (静的) : ユーザーは、受信機の IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを設定することができます。

Network Interface Settings

Ethernet Interface

Network Name

Connection Settings

Authentication

TCP/IP Settings

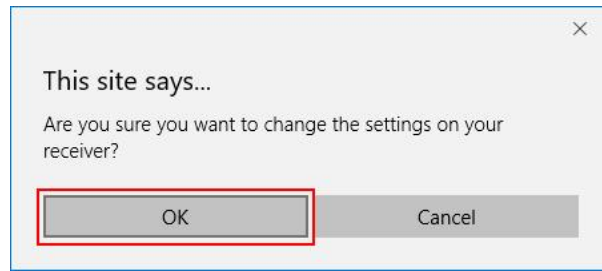
IP Assignment	☒ Auto	☐ Static		
IP Address	192	168	1	112
Subnet Mask	255	255	255	0
Default Gateway	192	168	1	1

DNS Assignment ☒ Auto ☐ Static

Primary DNS Server | | |

Secondary DNS Server | | |

3. Apply (適用) ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスの OK をクリックして確認します。



1.3.7.6 受信機の DNS サーバーの指定

受信機には、ネットワークに接続用のイーサネットインターフェイスとワイヤレスインターフェイスがあります。これらのインターフェイスには、個別の DNS 設定が必要です。デフォルトでは、受信機は DNS 設定を自動的に取得するように設定されています。イーサネットとワイヤレスインターフェイスの DNS 設定手順は同じです。

受信機の DNS サーバーを指定する場合は、以下の手順に従ってください：

1. Network Settings (ネットワーク設定) タブをクリックし、Network Settings (ネットワーク設定) タブページに移動します。



2. Network Interface Settings (ネットワークインターフェイス設定) > TCP/IP Setting (TCP/IP 設定) に進み、DNS Assignment (DNS 割り当て) を Auto (自動) または Static (静的) に設定します。
 - Auto (自動)：受信機に DNS サーバーが自動的に割り当てられます。
 - Static (静的)：ユーザーは受信機の DNS サーバーを定義することができます。Static を選択した場合、DNS サーバーを定義する必要があります。

Network Interface Settings

Ethernet Interface

Network Name

Connection Settings

Authentication

TCP/IP Settings

IP Assignment ☒ Auto ☐ Static

IP Address

Subnet Mask

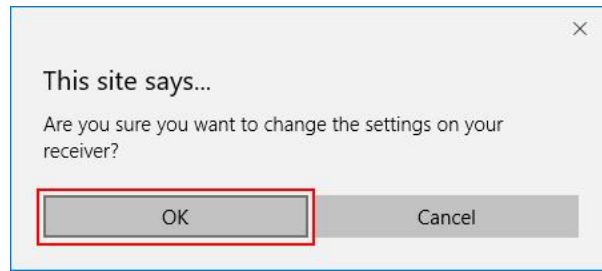
Default Gateway

DNS Assignment ☒ Auto ☐ Static

Primary DNS Server

Secondary DNS Server

3. Apply (適用) ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスの OK をクリックして確認します。



1.3.7.7 VLAN タギングの設定

ScreenBeam 受信機は、最大 3 つの VLAN 統合が行なえます。

ScreenBeam 受信機は、スイッチのトランクポートに接続する必要があり、さらにこのトランクポートは、ソース機器が受信機にワイヤレス表示する VLAN のパスを許可するように設定される必要があります。

受信機に VLAN タグを設定する場合は、以下の手順に従ってください：

1. VLAN が正しく設定され、VLAN ID が利用可能であることを確認します。
2. 設定する VLAN を通過させるトランクポートがスイッチに設定されていることを確認します。
3. Network Settings (ネットワーク設定) タブをクリックして、Network Settings (ネットワーク設定) タブページに移動します。



4. Network Interface Settings (ネットワークインターフェイス設定) > VLAN Settings (VLAN 設定) に進み、VLAN1/VLAN2/VLAN3 の Enable (有効) を Yes (はい) に設定します。

VLAN Settings

VLAN 1

Enable

☒ Yes ☐ No

Tag ID

(1-4094)

Name

Local Management Access

☐ Enable ☒ Disable

TCP/IP Settings

IP Assignment

☒ Auto ☐ Static

IP Address

Subnet Mask

Default Gateway

DNS Assignment

☒ Auto ☐ Static

Primary DNS Server

Secondary DNS Server

VLAN 2

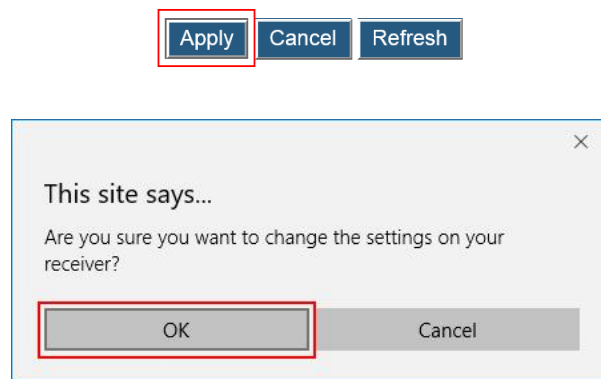
Enable ☐ Yes ☒ No

- Yes (はい) : VLAN が有効になっています。
 - Tag ID (タグ ID) : VLAN の ID (または番号) です。この VLAN は、受信機が

接続されているトランクポートの 許可パスに設定されている必要があります。範囲は 1~4094 です。

- Name (名前) : この VLAN の説明です。
 - Local Management Access : (ローカル管理アクセス) : この設定が Enable (有効) に設定されている場合、この VLAN に接続されているデバイスに対して LMI アクセスが許可されています。この設定が Disable (無効) に設定されている場合、この VLAN に接続されているデバイスに対して LMI アクセスは許可されていません。
 - IP Assignment (IP 割り当て) : 詳細については、5.3.7.5 Setting up the Receiver's IP Address (5.3.7.5 受信機の IP アドレスの設定) を参照してください。VLAN の IP 設定は、一般的な IP 設定の原則に従います。
 - DNS Assignment (DNS 割り当て) : 詳細については、5.3.7.6 Specifying a DNS Server for the Receiver (5.3.7.6 受信機の DNS サーバーの指定) を参照してください。VLAN の DNS 設定は、一般的な DNS 設定の原則に従います。
- No (いいえ) : VLAN は無効です。

5. Apply (適用) ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスの OK をクリックして確認します。



6. ScreenBeam 受信機を所定の位置に設置し、受信機のイーサネットポートをスイッチのトランクポートに接続します。

1.3.8 ローカル Wi-Fi 設定

ScreenBeam 1100 Plus は、LAN 経由のワイヤレスディスプレイ (Windows 10/11 Infracast、Apple AirPlay、Google Cast など)、および受信機管理を行うためのローカル Wi-Fi ネットワークを提供します。

受信機のローカル Wi-Fi を設定する場合は、以下の手順に従ってください：

1. Local Wi-Fi (ローカル Wi-Fi) タブをクリックして、Local Wi-Fi (ローカル Wi-Fi) タブページに移動します。



2. Local Wi-Fi Settings (ローカル Wi-Fi 設定) セクションに移動し、ScreenBeam Local Wi-Fi (ScreenBeam ローカル Wi-Fi) を Enable (有効) または Disable (無効) に設定します。

- Enable (有効)：受信機のローカル Wi-Fi がオンになります。
- Disable (無効)：受信機のローカル Wi-Fi はオフになります。

Local Wi-Fi Settings

A screenshot of the 'Local Wi-Fi Settings' form. At the top, there is a section for '* ScreenBeam Local Wi-Fi' with two radio buttons: 'Enable' (selected) and 'Disable'. Below this are several input fields: '* Wireless Network Name' with the value 'AP-102034', '* Wireless Security Type' with a dropdown menu showing 'WPA2 PSK', '* Password Phrase' with a masked input field showing '*****', and '* Wireless Channel' with the value '36'. To the right of the channel field is a link that says 'US/FCC'. At the bottom, there is a section for '* SSID Broadcast' with two radio buttons: 'Enable' (selected) and 'Disable'.

3. 受信機のローカル Wi-Fi 機能が有効になっている場合は、ワイヤレスネットワーク名、ワイヤレスセキュリティタイプ、パスワードフレーズ、ワイヤレスチャンネル、SSID ブロードキャストを設定します。

- Wireless Network Name (ワイヤレスネットワーク名)：受信機のローカル Wi-Fi のネットワーク名です。ローカル Wi-Fi が有効な場合、このネットワーク名は Wi-Fi (5GHz) 対応デバイスで検出できます。

注意：ワイヤレスネットワーク名は<>以外のすべての文字をサポートしていて、長さは 1～32 文字です。

- Wireless Security Type (ワイヤレスセキュリティタイプ)：Wi-Fi に接続する際のセキュリティ確認方法です。

- Password Phrase (パスワードフレーズ)：Wi-Fi に接続するためのパスワードです。デフォルトのパスワードは screenbeam です。

注意：パスワードフレーズは以下の文字に対応しています：a-z、A-Z、0-9、~!@#\$\$%^&* () _、長さは 8-63 文字です。

- Wireless Channel (ワイヤレスチャンネル)：Wi-Fi 接続に使用するワイヤレスチャンネルです。このチャンネルは P2P 操作チャンネルに関連付けられます。詳細は

5.3.3.2 Setting up P2P Operating Channel (5.3.3.2 P2P 操作チャネルの設定)を参照してください。

- SSID Broadcast (SSID ブロードキャスト) : この設定を有効にすると、受信機のローカル Wi-Fi の SSID がブロードキャストされ、無効にすると、受信機のローカル Wi-Fi の SSID はブロードキャストされません。SSID ブロードキャストが無効の場合、受信機のローカル Wi-Fi にデバイスを手動で接続する必要があります。

Local Wi-Fi Settings

* ScreenBeam Local Wi-Fi ☒ Enable ☐ Disable

* Wireless Network Name

* Wireless Security Type

* Password Phrase

* Wireless Channel

* SSID Broadcast ☒ Enable ☐ Disable

US/FCC

4. Apply (適用) ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスの OK をクリックして確認する。

×

This site says...

Are you sure you want to change the settings and reboot your receiver?

ローカル Wi-Fi の DNS サーバーを指定する場合は、Network Settings (ネットワーク設定) タブページの Local Wi-Fi Network (ローカル Wi-Fi ネットワーク) > DNS Assignment (DNS 割り当て) に進みます。Auto (自動) を選択して Apply (適用) をクリックするか、Static (静的) を選択して希望の DNS サーバーアドレスを入力し、Apply (適用) をクリックします。

Local Wi-Fi Network

* Select network mode

Block communication to devices on the LAN ☐ Enable ☒ Disable

DNS Assignment ☒ Auto ☐ Static

DNS Server

1.3.9 受信機管理アクセス設定

ここでは、受信機管理の設定を紹介します。

1.3.9.1 受信機に ScreenBeam CMS を指定する

受信機の CMS サーバーを指定する場合は、以下の手順に従ってください：

1. Management Access（管理アクセス）タブをクリックして、Management Access（管理アクセス）タブページを開きます。



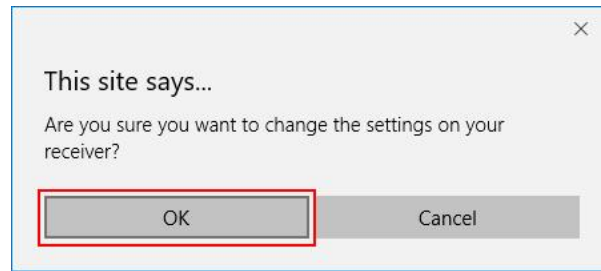
2. Central Management System Settings（セントラル管理システム設定）セクションに移動し、CMS Server（CMS サーバー）、CMS Communication Port（CMS 通信ポート）、および Service Platform CMS Port（サービスプラットフォーム CMS ポート）を設定します。
- CMS Server（CMS サーバー）：これは、ScreenBeam CMS をホストするサーバーの IP アドレスまたは FQDN/ホスト名/ドメイン名/エイリアス名（DNS サーバーと DHCP サーバーが適切に設定されている場合）です。最大 6 ラベルのドメインをサポートします。**注意：** CMS サーバーには DNS 設定を使用することをお勧めします。
 - CMS Communication Port（CMS 通信ポート）：ScreenBeam 受信機と ScreenBeamCMS 間の通信ポートです。ポートの範囲は 5000 から 65535 です。デフォルトは 7237 です。
 - Service Platform CMS Port（サービスプラットフォーム CMS ポート）：ScreenBeam 受信機とサービスプラットフォーム CMS (SPCMS) 間の通信ポートです。ポート範囲は 5000 ～65535 です。デフォルトは 6388 です。ScreenBeam CMSE 4.3.10.13 以降で使用するために確保されています。

Central Management System Settings:

CMS Server	aeisbcms
CMS Communication Port	7237
Web Communication Port	443
Service Platform CMS Port	6388

3. Apply（適用）ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスの OK をクリックして確認します。





1.3.9.2 受信機の LMI 用ポートの指定

受信機のローカル管理インターフェースの通信ポートを指定する場合は、以下の手順に従ってください：

1. Management Access（管理アクセス）タブをクリックして、Management Access（管理アクセス）タブページに移動します。



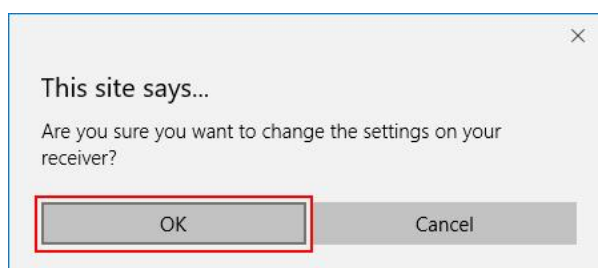
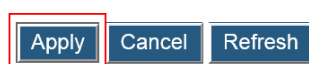
2. Central Management System Settings（セントラル管理システム設定）セクションに移動し、Web Communication Port（ウェブ通信ポート）のポートを定義する。

- Web Communication Port（ウェブ通信ポート）：受信機のローカル管理インターフェースの通信ポートです。ポートの範囲は 5000～65535（5555 を除く）です。デフォルトは 443 番ポートです。

Central Management System Settings:

CMS Server	aeisbcms
CMS Communication Port	7237
Web Communication Port	443
Service Platform CMS Port	6388

3. Apply（適用）ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスの OK をクリックして確認します。



1.3.9.3 ローカル管理インターフェースアクセスの設定

受信機のローカル管理インターフェース（LMI）は、受信機をローカルで管理するために使用できます。

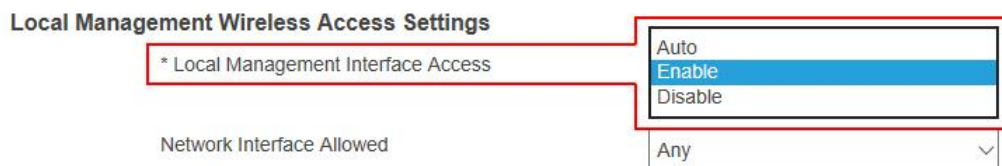
受信機の LMI アクセスを設定する場合は、以下の手順に従ってください：

1. Management Access（管理アクセス）タブをクリックして、Management Access（管理アクセス）タブページを開きます。



2. Local Management Interface Access Settings（ローカル管理インターフェースアクセス設定）セクションに移動し、Local Management Interface Access（ローカル管理インターフェースアクセス）ボックスからオプションを選択します。3つのオプションがあります：Auto（自動）、Enable（有効）、Disable（無効）です。

- Auto（自動）：受信機の LMI へのアクセス可否は、CMS 接続の可否に左右されます。受信機が CMS に接続されている場合、受信機の LMI へのアクセスは自動的に無効になり、そうでない場合はアクセスが有効になります。
- Enable（有効）：受信機が CMS に接続されているかどうかに関わらず、受信機の LMI へのアクセスが有効になります。
- Disable（無効）：受信機の LMI へのアクセスは利用できません。



3. Network Interface Allowed（ネットワークインターフェース許可）ボックスからオプションを選択します。

- Any（任意）：受信機の LMI へのアクセスは、どのネットワークインターフェースでも許可されます。
- Ethernet LAN（イーサネット LAN）：受信機の LMI へのアクセスは、受信機のイーサネット経由のみ限定されます。
- Wireless LAN（ワイヤレス LAN）：受信機の LMI へのアクセスは、受信機のワイヤレス経由のみ限定されます。
- Local Wi-Fi AP（ローカル Wi-Fi AP）：受信機の LMI へのアクセスは、受信機のローカル Wi-Fi 経由のみ限定されます。
- Miracast P2P：受信機の LMI へのアクセスは、受信機の Miracast P2P 経由のみ限定されます。

Local Management Wireless Access Settings

* Local Management Interface Access

Enable

Network Interface Allowed

Any
Ethernet LAN
Wireless LAN
Local Wi-Fi AP
Miracast P2P

4. Apply (適用) ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスの OK をクリックして確認します。

Apply

Cancel

Refresh

This site says...

Are you sure you want to change the settings and reboot your receiver?

OK

Cancel

5. 受信機が再起動され、再起動後に新しい設定が有効になります。

パート II. 受信機のファームウェア更新

ScreenBeam 1100 Plus は、LMI を通してワイヤレスで、または USB を利用してローカルでファームウェアをアップデートすることができます。

2.1 LMI 経由でのファームウェアアップデート

LMI 経由で受信機のファームウェアをアップデートする場合、ローカル PC から行う方法と ScreenBeam ファームウェアアップデートサーバーから行う方法があります。

2.1.1 ローカル PC 上でのファームウェアアップデート

ユーザーは、ローカル PC からファームウェアアップデートファイルを転送することで、受信機のファームウェアをワイヤレスでアップデートすることができます。

ローカル PC から受信機をアップグレードする場合は、以下の手順に従ってください：

1. ScreenBeam のウェブサイト <https://support.screenbeam.com> から最新のファームウェアをダウンロードします。
2. ScreenBeam 1100 Plus のローカル管理画面にログインし、ファームウェアアップグレードタブをクリックして、ファームウェアアップグレードタブページに移動します。

Local Management Interface

English

Device Configuration Features Digital Signage Video Conferencing MultiBeam Calendar Network Settings Local Wi-Fi Management Access

Firmware Upgrade Maintenance

Firmware Upgrade (ファームウェアアップグレード) タブページでは、Firmware Version (ファームウェアバージョン) セクションにおいて、現在のファームウェアバージョンを確認することができます。

Current Version 11.1.15.0

From a USB drive ☒ Enable ☐ Disable Update automatically (files) is plugged in. Connect state.

From a local PC Browse...

From the Internet Check for Updates

3. From a local PC (ローカル PC から) ボックスの横にある Browse (ブラウズ) ボタンを選択します。

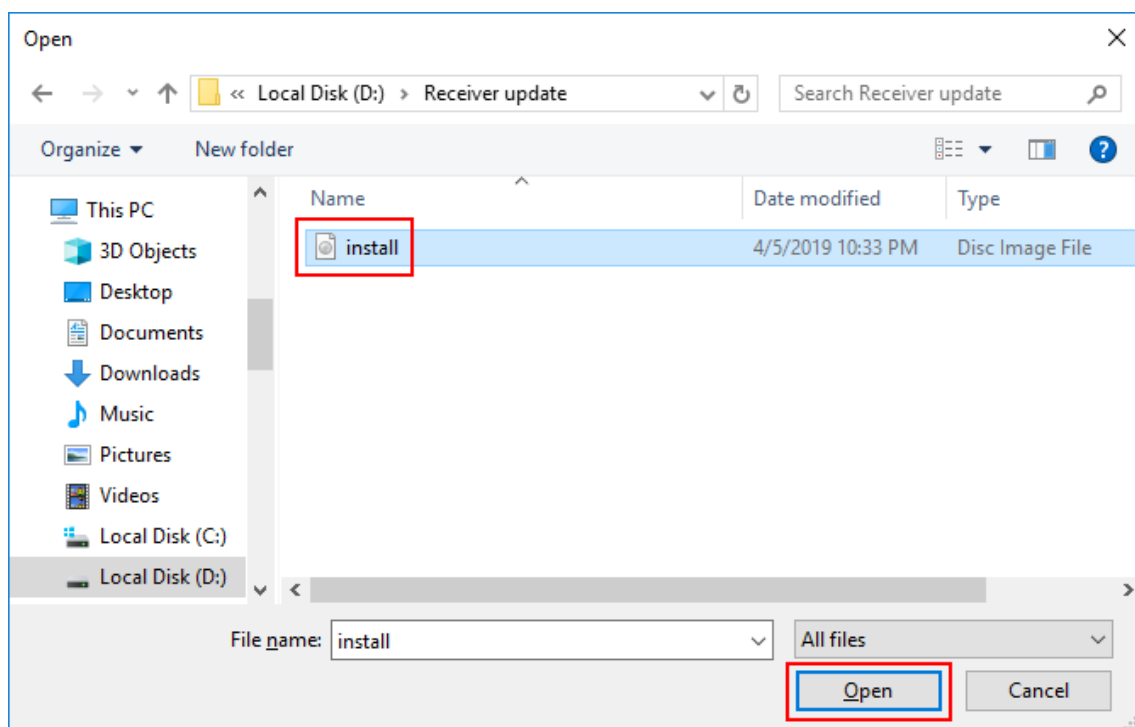
Current Version

From a USB drive ☒ Enable ☐ Disable Update automatic files) is plugged i
Connect state.

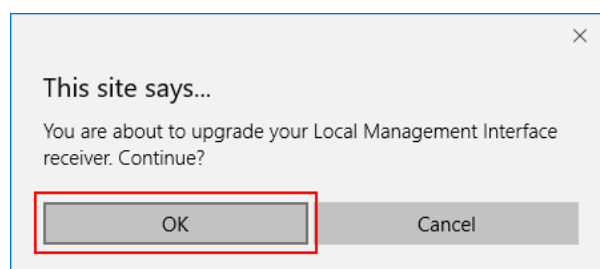
From a local PC Browse...

From the Internet Check for Updates

4. Open（開く）ウィンドウが表示されます。解凍したファームウェアファイルのフォルダに移動してください。ファームウェアファイル（「install.img」）を選択し、Open（開く）ボタンをクリックして続行します。



5. Apply（適用）ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスのOKをクリックして続行します。



6. ウェブサーバーがファームウェアファイルの受信機への転送を始めます。

Current Version	11.1.15.0		
From a USB drive	☒ Enable ☐ Disable	Update automatic files) is plugged i Connect state.	
From a local PC	install.img	Remove	
From the Internet		Check for Updates	
Apply Cancel Refresh			



Transferring the firmware may take several minutes, please wait...

7. ファイルのアップロードに成功すると、受信機は再起動され、アップグレードが行われます。接続ディスプレイにファームウェアのアップグレード状況が表示されます。
 8. 受信機がアイドル画面に戻ったら、アップグレード完了です。
- 注意:** アップグレード中は、受信機の電源を切らないでください。アップグレードには時間がかかります。しばらくお待ちください。

2.1.2 インターネットからのファームウェアアップデート

ユーザーは、オンラインアップデートサーバーを使用して、受信機のファームウェアをワイヤレスで アップデートすることができます。

インターネットから受信機をアップグレードする場合は、以下の手順に従ってください：

1. 受信機がインターネットにアクセスできるネットワークに接続されていることを確認してください。
2. ScreenBeam 1100 Plus のローカル管理画面にログインし、Firmware Upgrade（ファームウェアアップグレード）タブをクリックして、Firmware Upgrade（ファームウェアアップグレード）タブページに移動します。



Firmware Upgrade（ファームウェアのアップグレード）タブを開くと、ユーザーは Firmware Version（ファームウェアバージョン）のセクションで現在のファームウェアのバージョンを確認することができます。

Current Version	11.1.15.0	
From a USB drive	☒ Enable ☐ Disable	Update automatic files) is plugged i Connect state.
From a local PC		Browse...
From the Internet		Check for Updates

3. From the Internet（インターネットから）ボックスの横にある Check for Updates（アップデートをチェック）ボタンをクリックします。利用可能な新しいファームウェアアップデートがある場合は、From the Internet（インターネットから）ボックスに「新しいバージョンが利用可能です」というメッセージが表示されます。

Current Version	11.1.15.0	
From a USB drive	☒ Enable ☐ Disable	Update automatic files) is plugged i Connect state.
From a local PC		Browse...
From the Internet		Check for Updates

Current Version 11.1.15.0

From a USB drive ☒ Enable ☐ Disable Update automatic files) is plugged i
Connect state.

From a local PC Browse...

From the Internet Newer version is available Update Now

4. Update Now（今すぐアップデート）ボタンをクリックすると、受信機のファームウェアアップデートが始まります。

Current Version 11.1.15.0

From a USB drive ☒ Enable ☐ Disable Update automatic files) is plugged i
Connect state.

From a local PC Browse...

From the Internet Newer version is available Update Now

5. 受信機がインターネットアップデートサーバーからファームウェアをダウンロードします。

Current Version 11.1.15.0

From a USB drive ☒ Enable ☐ Disable Update automatic files) is plugged i
Connect state.

From a local PC Browse...

From the Internet Newer version is available Update Now

 Downloading firmware. This may take a few minutes.

[Cancel](#)

6. ファイルのダウンロードに成功すると、受信機は再起動され、アップグレードが行われます。ファームウェアのアップグレード状況が接続ディスプレイに表示されます。
7. 受信機がアイドル画面に戻ったら、アップグレード完了です。

注意： アップグレード中は、受信機の電源を切らないでください。アップグレードには時間がかかります。しばらくお待ちください。

2.2 USB を使用したファームウェアアップデート

USB を使用して受信機のファームウェアをアップデートする場合は、以下の手順に従ってください：

1. ScreenBeam のウェブサイト <https://support.screenbeam.com> から最新のファームウェアをダウンロード してください。
2. ダウンロードしたファイルを解凍し、「install.img」ファイルと「autorun」ファイルフォルダを USB フラッシュドライブのルートディレクトリにコピーします。



注意：

- ポータブルハードドライブは使用しないでください。FAT/FAT32 フォーマットの USB フラッシュドライブのみを使用することをお勧めします。
 - 解凍したファイルに変更を加えないでください。
3. 受信機のアイドル画面がテレビに表示されていることを確認してください。
注意：アップグレードプロセスを開始する前に、受信機がアイドル状態であることを確認してください。
 4. 受信機の LMI にログインします。Firmware Upgrade (ファームウェアのアップグレード) ページに移動し、From a USB Drive (USB ドライブから) が Enable (有効) に設定されていることを確認します。

Current Version	11.1.15.0	
From a USB drive	☒ Enable	☐ Disable
	Update automatic files) is plugged i Connect state.	
From a local PC		Browse...
From the Internet		Check for Updates

5. USB フラッシュドライブを受信機の USB ポートに差し込みます。
6. 受信機が自動的にファームウェアのアップデートを始めます。ファームウェアアップグレードのステータスメッセージがテレビに表示されます。
警告 アップグレード中は、受信機の電源を切ったり、USB フラッシュドライブを取り外したりしないでください。ファームウェアのアップグレードに失敗します。
7. ファームウェアアップデート完了後、受信機が再起動します。

8. 受信機のアイドル画面が表示された後、USB を取り外すことができます。

注意：同じ USB フラッシュドライブを使用して同じ受信機を再度アップグレードする場合は、sbrun.txt ファイルが USB フラッシュドライブに存在しないことを確認してください。

パート III. 受信機のメンテナンス

このセクションでは、受信機のメンテナンスに関する設定を紹介します。

3.1 受信機の自動再起動設定

長期間連続稼働を続けると、受信機の反応が鈍くなることがあります。デバイスを再起動することで、応答性を回復させることができます。

受信機を自動的に再起動するように設定する場合は、以下の手順に従ってください：

1. Features（機能）タブをクリックして、Features（機能）タブページを開きます。

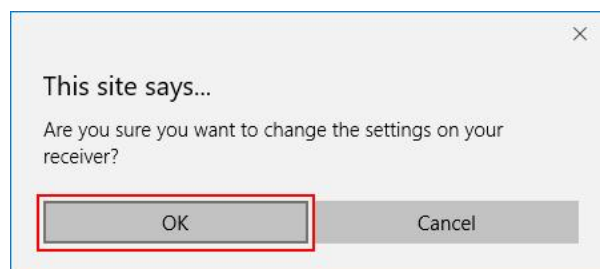


2. Operation（操作）セクションに移動し、Auto-reboot receiver when idle for（アイドル時に受信機を自動再起動）ボックスからオプションを選択します。
 - Never（決して再起動しない）は、受信機が自動的に再起動しないことを示します。これはデフォルト設定です。
 - xx hour（s）（xx 時間）は、受信機が xx 時間アイドル状態になると自動的に再起動することを示します。

Operation

A screenshot of the 'Operation' section in the interface. The 'Auto-reboot receiver when idle for' dropdown menu is open, showing options: Never, 6 hours, 8 hours, 10 hours, 12 hours, and 24 hours. The 'Never' option is selected and highlighted with a blue bar. Below the dropdown, there are radio buttons for 'Enable' (selected) and 'Disable'. The entire dropdown menu and the 'Enable/Disable' controls are enclosed in a red box.

3. Apply（適用）ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスの OK をクリックして確認します。



3.2 受信機ログを設定する

ScreenBeam 受信機は、イベントをログに保存することができます。これらのログは、受信機の LMI または ScreenBeamCMS から取得することができます。詳細については、ScreenBeam CMS のユーザーガイドを参照してください。

受信機のログインを設定する場合は、以下の手順に従ってください：

1. 受信機の LMI にログインし、Features（機能） タブページに移動します。

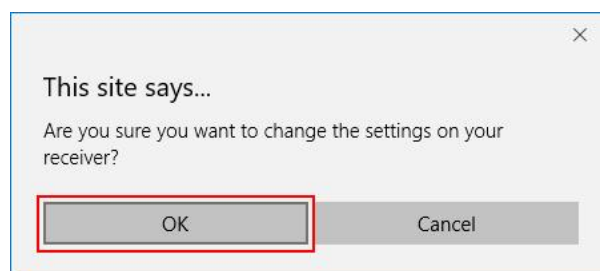


2. Operation（操作）セクションに移動し、Receiver Logging（受信機ログ）を Enable（有効）または Disable（無効）に設定してください。

- Enable（有効）：イベント発生時にログを記録します：イベントが発生すると、受信機はログを記録します。
- Disable（無効）：受信機はイベントを記録しません。



3. Apply（適用）ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスの OK をクリックして確認します。



3.3 LMI で受信機のログをエクスポートする

受信機からログをエクスポートする場合は、以下の手順に従ってください：

1. 受信機のログが有効になっていることを確認します。詳細については、セクション 7.2 Setting up Receiver Logging (7.2 受信機ログの設定) を参照してください。
2. 受信機の LMI にログインし、Maintenance (メンテナンス) タブページに移動します。

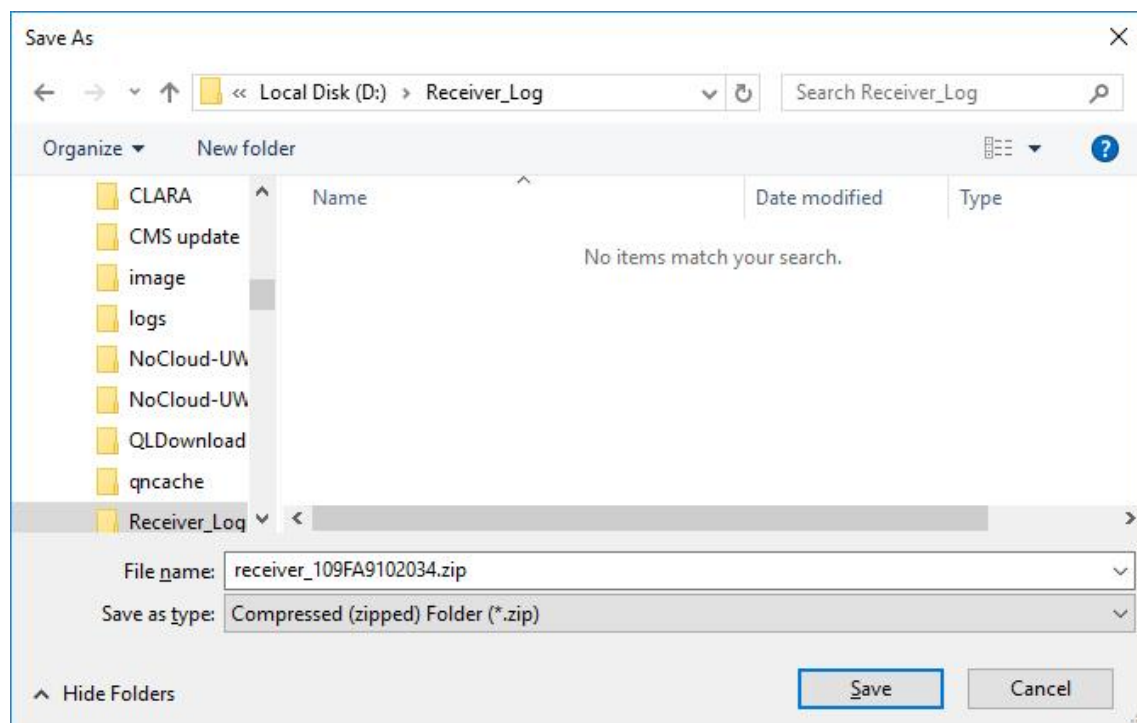
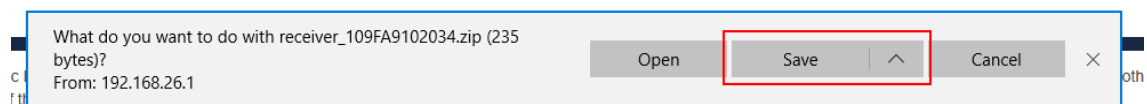


3. Export Logs (ログのエクスポート) セクションに移動し、Export Receiver Logs (受信機のログをエクスポート) の横にある Export (エクスポート) ボタンをクリックします。

Export Logs



4. ファイルダウンロードダイアログボックスが表示されます。Save (保存) または Save as (名前を付けて保存) をクリックして受信ログを保存してください。



3.4 リセットボタンの無効化

ScreenBeam 1100 Plus には、受信機をデフォルト設定にリセットするボタンがあります。これがリセットボタンです。ScreenBeam 1100 Plus では、このボタンのすべての機能を無効にすることもできます。

リセットボタンの機能を有効または無効にするには、以下の手順に従ってください：

1. 受信機の LMI にログインし、Features（機能）タブページに移動します。

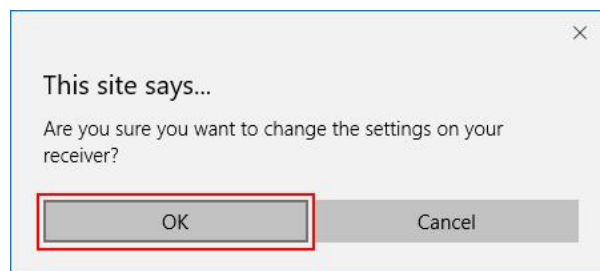


2. Operation（操作）セクションに移動し、Push Button（プッシュボタン）を Enable（有効）または Disable（無効）に設定します。

- Enable（有効）：リセットボタンの機能が使用できます。
- Disable（無効）：リセットボタンの機能は使用できません。



3. Apply（適用）ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスの OK をクリックして確認します。



3.5 USB ポートの設定

ScreenBeam 1100 Plus は、受信機の設定、タッチスクリーンのサポート、USB ファームウェアアップグレードなどの様々なタスクを行うために、2 つの USB 2.0 ポートと 1 つの USB3.0 ポートを備えています。ScreenBeam 1100 Plus では、これらのポートの機能を無効にすることもできます。

USB ポートの機能を無効または有効にする場合は、以下の手順に従ってください：

1. 受信機の LMI にログインし、Features（機能）タブページに移動します。

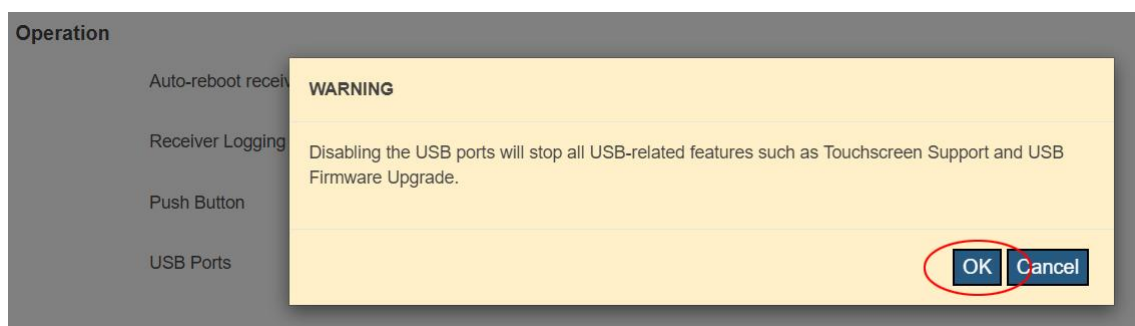


2. Operation（操作）セクションに移動し、USB Ports（USB ポート）を Enable（有効）または Disable（無効）に設定します。
 - Enable（有効）：USB ポートの機能が使用できます。
 - Disable（無効）：USB ポートの機能は使用できません。

Operation

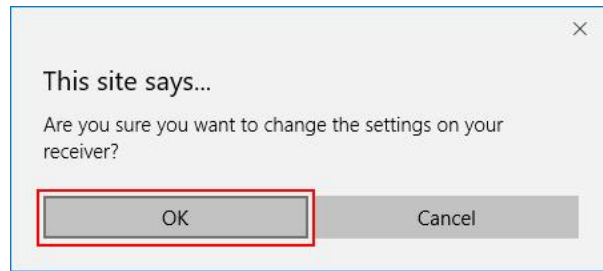
Auto-reboot receiver when idle for	Never
Receiver Logging	☒ Enable ☐ Disable
Push Button	☒ Enable ☐ Disable
USB Ports	☒ Enable ☐ Disable

3. USB Ports（USB ポート）が Disable（無効）に設定されている場合、USB ポート関連の機能も無効になる旨の警告メッセージボックスが表示されます。OK をクリックして続行してください。



4. Apply（適用）ボタンをクリックし、ポップアップメッセージボックスの OK をクリックして確認する。





3.6 システム稼働時間の表示

受信機のシステム稼働時間を表示する場合は、以下の手順に従ってください：

1. 受信機の LMI にログインし、Maintenance（メンテナンス）タブページに移動します。



2. System Uptime（システム稼働時間）セクションに移動し、Time since last boot（最終起動からの時間）行に表示されている期間を確認します。

System Uptime

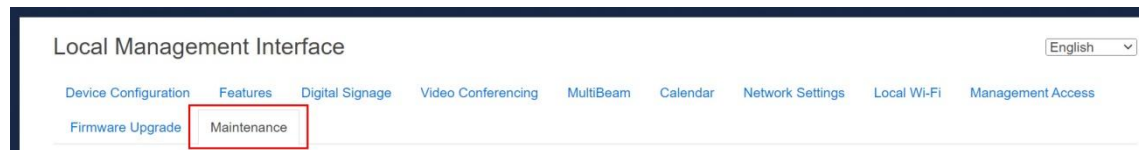
Time since last boot:	0d,1h,17m
-----------------------	-----------

3.7 受信機の再起動

受信機を再起動する場合は、電源アダプターをコンセントから抜き、5 秒待ってから差し込んでください。

ローカルで受信機にアクセスできない場合は、受信機の LMI を使って受信機を再起動することができます。

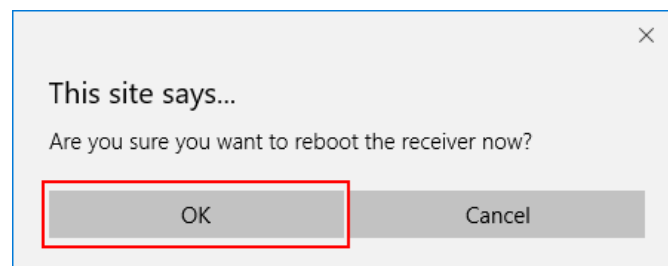
LMI を使って受信機を再起動する場合は、以下の手順に従ってください LMI にログインし、Maintenance（メンテナンス）タブのページに移動します。



1. Device Utilities（デバイスユーティリティ）セクションに移動し、Reboot Receiver（レシーバーの再起動）の横にある Reboot（再起動）ボタンをクリックします。



2. ポップアップメッセージボックスで OK をクリックして確認してください。



3.8 受信機をデフォルトにリセットする

受信機のすべての設定をデフォルトにリセットする場合は、以下の手順に従ってください：

1. 受信機の電源を入れ、アイドル画面が表示されるまでお待ちください。
2. Push Button（プッシュボタン）機能が有効になっていることを確認します。詳細については、セクション 7.4 Disabling the Reset Button（リセットボタンの無効化）を参照してください。
3. 受信機のリセットボタンを押し続けます。
4. Resetting to factory defaults（工場出荷時のデフォルトにリセット）画面が HDTV に表示されたら、リセットボタンを離します。

受信機が再起動され、デフォルト設定で動作します。

注意：この方法では、すべての設定がデフォルトにリセットされます。

ローカルで受信機にアクセスできない場合は、受信機の LMI を使って受信機をリセットすることができます。

LMI を使用して受信機をリセットする場合は、以下の手順に従ってください：

1. 受信機の LMI にログインし、Maintenance（メンテナンス）タブのページに移動します。

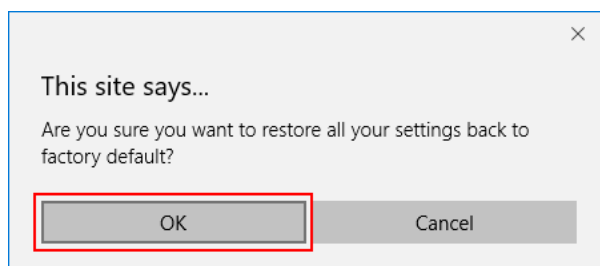


2. Device Utilities（デバイスユーティリティ）セクションに移動し、Reset（リセット）の隣にある Reset（リセット）ボタンをクリックしてください。このボタンは、受信機の物理ボタンと同じ機能です。

Device Utilities



3. ポップアップ メッセージ ボックスで OK をクリックして確認してください。



4. 受信機が再起動され、再起動後に工場出荷時のデフォルトにリセットされます。
5. ネットワーク接続設定やリモート管理設定を変更せず受信機をリセットする場合は、Soft Reset（ソフトリセット）の横にある Reset（リセット）ボタンをクリックします。

Device Utilities

Reboot Receiver

Reboot

Reset

Reset

Soft Reset

Reset

LMI から受信機をソフトリセットした場合、以下の設定が維持されます：

● CMS サーバー IP アドレス ● CMS 通信ポート ● サービスプラットフォーム CMS ポート ● 受信機 IP 設定 (DHCP または静的 IP) ● 受信機 IP アドレス ● 受信機サブネットマスク ● 受信機ゲートウェイ ● 受信機 DNS 設定 (動的または静的)	● プライマリ DNS ● セカンダリ DNS ● ホスト名 ● 有線接続設定 ● ワイヤレス接続設定 ● タイムゾーン
--	--

3.9 最適なパフォーマンスのためのヒント

最適なパフォーマンスを得るためには、以下のヒントをお試してください：

- 受信機をソースデバイスの直線見通し内に置いてください。こうすることで、受信機が最良の信号を受信できるようになります。
- 受信機の最適なワイヤレス範囲は、送信元デバイスから 30 フィート以内です。ただし、実際の範囲や効果は、他の干渉源や周囲の構造物に使用されている建材など、多くの要因によって異なります。
- 金属製の棚、扇風機、モーター付きアイテム、電子レンジ、コードレス電話、2.4GHz 非 Wi-Fi 無線デバイスなどのワイヤレス干渉源の近くに受信機を置かないでください。

付録 I. トラブルシューティングとよくある質問（FAQ）

この章では、ScreenBeam 1100 Plus を使用する際に発生する可能性のある問題、またそれらの問題に対して考えられる解決策について説明します。また、よくある質問（FAQ）とその回答も記載しています。

トラブルシューティング

受信機の電源を入れても、HDTV の画面に何も表示されません。

ケーブルの接続を確認し、テレビの入力設定が、受信機が接続されている HDMI®ポートと一致していることを確認してください。

アーティファクトが表示され、ビデオストリームが途切れ途切れになります。

ノイズの多い Wi-Fi 環境では、ビデオコンテンツの再生中に音声や映像がフリーズし、ストリーミング時に予想以上の遅延が発生することがあります。最適な Wi-Fi 環境をご利用ください：

- 受信機の接続を解除し、再接続してください。
- ソースデバイスがワイヤレスルーターに接続されている場合は、ルーターを再起動するか、ワイヤレスルーター/AP のワイヤレスチャンネルを変更してください。詳細については、ワイヤレスルーターのユーザーマニュアルを参照してください。

Miracast™デバイスでインターネットビデオを見ているときに、途切れたり、一時停止したりします。

ワイヤレス干渉により、インターネットビデオの再生が途切れることがあります。このような場合は、以下をお試しください：

- デバイスを受信機から取り外します。インターネット接続が安定し、端末で再生しているビデオがスムーズであることを確認しましょう。
- YouTube のキャッシュをクリアし、ビデオの再生を再度お試しください。

Miracast™デバイスでローカルビデオを見ているときに、途切れたり、一時停止したりします。

ワイヤレスの干渉によって、ビデオの再生が途切れることがあります。このような場合は、以下をお試しください：

- 受信機と同じ部屋にいることを確認してください。
- メディアプレーヤーを H/W デコーダーを使用するように設定します (利用可能な場合)。
- Miracast™デバイスと受信機を再起動し、再度接続しなおしてください。
- Miracast™デバイスを移動しすぎないようにしてください。
- ワイヤレスルーター/アクセスポイント、または受信機のワイヤレスチャンネルを変更してください。

私の Windows 10/11 はテレビに表示されますが、画面の四隅が切れています（オーバースキャン）。

これは、システムがサポートするディスプレイ解像度によっては起こりうることです。Windows の画面解像度設定を調整して、PC の画面をテレビのディスプレイに合わせることはできます。

ScreenBeam 1100 Plus との接続に失敗し、デバイスが接続できなくなりました。

- ScreenBeam 1100 Plus を再起動して、接続を再試行してください。あるいは、デバイス（ラップトップ/Ultrabook/タブレット/スマートフォン）を再起動し、接続を再試行してください。
- ScreenBeam 1100 Plus とデバイスの双方を再起動し、接続を再試行してください。
- Windows 10 オペレーティングシステムを使用している場合は、Settings（設定）>Devices（デバイス）>Bluetooth & other devices（Bluetooth とその他のデバイス）>Wireless displays & docks（ワイヤレスディスプレイとドック）（または、Settings（設定）>Devices（デバイス）>Wireless displays & docks（ワイヤレスディスプレイとドック）、または旧バージョンの Settings（設定）>Devices（デバイス）>Connected Devices（接続デバイス）>Projectors（プロジェクター））に進み、ご使用のデバイス（PC/laptop/Ultrabook）から ScreenBeam 1100 Plus のプロファイルを削除してから、再度接続をお試しください。
- Windows 11 オペレーティングシステムを使用している場合は、Settings（設定）>Bluetooth & devices（Bluetooth & デバイス）>Devices（デバイス）>Wireless displays & docks（ワイヤレスディスプレイ & ドック）に進み、お使いのデバイス（PC/ノートパソコン/Ultrabook）から ScreenBeam 1100 Plus のプロファイルを削除してから、接続を再試行してください。

デバイスの ScreenBeam 設定ユーティリティを使って受信機に接続できません。ユーティリティが受信機を見つけられません。

ScreenBeam 1100 Plus は ScreenBeam 設定ユーティリティと互換性がありません。受信機の設定やアップグレードには、受信機のローカル管理インターフェイスまたは ScreenBeam センtral管理システムをご使用ください。

ソースデバイスをワイヤレスネットワーク（ルーター/AP）に接続すると、ScreenBeam 1100 Plus が自動的に切断されるのはなぜですか？

ソースデバイスが ScreenBeam 1100 Plus に接続されている状態で、デバイスをワイヤレスネットワーク（ルーター/AP）に接続すると、ソースデバイスの通信チャンネルが変更されます。この結果、ScreenBeam 1100 Plus はソースデバイスから切断されてしまいます。ソースデバイスが異なるチャンネルモードをサポートしていない場合、ルーター/AP と同じチャンネルで動作するように受信機を設定する必要があります。

Chromebook または Chrome ブラウザで ScreenBeam が見つかりません。

以下の方法をお試しください：

- Google Cast でワイヤレスディスプレイオーバーLAN 機能が有効になっていて、ScreenBeam とお使いのデバイスが同じネットワークに接続されていることを確認してください。

- 受信機がインターネットにアクセスできることを確認して、NTP サーバーと時刻を同期できるようにしてください。
- デバイスで google.com にアクセスし、デバイスが Google サーバーにアクセスできることを確認してください。
- 受信機のタイムゾーンを変更した場合は、タイムゾーンをユニバーサルタイムにリセットします。(この方法は、ファームウェア 11.0.6.0 の ScreenBeam に適用されます。)

よくある質問 (FAQ)

自分のデバイスが Wi-Fi Miracast に対応しているかどうかは、どうすればわかりますか？
お使いのデバイスで、以下の Miracast アプリケーションのいずれかを探してください。以下に記載されているのは一部のアプリケーション名のみです。またメーカーによって、製品上の Miracast アプリケーションの名前が異なる場合があります。しかしそれらは似たような意味を示しているはずです。

- 接続
- ワイヤレスディスプレイ
- ワイヤレスミラーリング
- スクリーンミラーリング
- AllShareCast (Samsung デバイスのみ)
- キャストスクリーン

おすすめの Miracast デバイスについては、ScreenBeam 1100 Plus の互換性ページをご覧ください。

ScreenBeam 1100 Plus 受信機を使用するにあたり、ドライバやアプリをインストールする必要がありますか？

- Windows 11/10 の場合、最新の Windows アップデートをインストールするだけです。
- Android 8 以上の場合、アプリは必要ありません。
- AirPlay をサポートする Apple デバイスの場合、アプリは必要ありません。
- Cast を搭載した ChromeOS デバイスの場合、アプリは必要ありません。

ビデオ/オーディオのパフォーマンスを向上させる方法は？

ScreenBeam 1100 Plus 受信機のビデオ/オーディオ性能を向上させるためには、以下の方法をお試しください：

- デバイスを受信機に近づけてください。
- よりクリーンなワイヤレスチャネルを使用しているワイヤレスネットワークにデバイスを接続するか、現在のワイヤレスネットワークのワイヤレスチャネルを変更してから、デバイスを受信機に接続してください。
- 現在使用していない Wi-Fi デバイスの電源を切ってください。

受信機のワイヤレス信号範囲はどこまでですか？

受信機は、ソース機器と同じ部屋で使用するよう設計されています。最高のパフォーマンスを得るためには、ソース・デバイスは受信機から 20 メートル以内に設置する必要があります。

テレビ画面にぴったり合うようにディスプレイを調整するにはどうすればよいですか？

受信機のローカル管理インターフェイスまたは ScreenBeam セントラル管理システムを使い、ディスプレイを調整することができます。

- 受信機のローカル管理インターフェイスにログインし、Features（機能）ページの Adjust TV Screen Size（テレビ画面サイズの調整）からディスプレイを調整します。
- ScreenBeam セントラル管理システムでは、受信機をダブルクリックして受信機設定ページを開き、Features（機能）セクションのテレビ画面サイズを調整できます。

ScreenBeam のビデオ出力を 16 : 9 以外のアスペクト比のディスプレイに合わせる方法は？

ScreenBeam 受信機の HDMI®出力は、16 : 9 の解像度にのみ対応しています。

Miracast デバイスから Windows デスクトップを HDTV やプロジェクターに拡張できますか？

はい。ScreenBeam 1100 Plus 受信機への接続が確立された後は、デフォルトでノートパソコンの画面が HDTV またはプロジェクターにミラーリングされます。

Windows デスクトップを HDTV またはプロジェクターに延長するには、Windows キーと P キーを同時に押し、Duplicate（複製）、Extend（拡張）または Second screen only（セカンダスクリーンのみ）モードを選択してください。

macOS のデスクトップを HDTV やプロジェクターに拡張するには、メニューバーのスクリーンミラーリングアイコン  を選択し、Mirror Built-in Retina Display（ミラー内蔵 Retina ディスプレイ）、Use As Extended Display（拡張ディスプレイとして使用）から希望の投影モードを選択します。

Wi-Fi Miracast™とは？

Wi-Fi 認証 Miracast™は、ケーブルやネットワーク接続を必要とせず、デバイス間でシームレスに映像を表示する画期的なソリューションです。ユーザーは、スマートフォンの写真を大画面テレビで見たり、ノートパソコンの画面を会議室のプロジェクターとリアルタイムで共有したり、家庭用ケーブルボックスのライブ番組をタブレットで見たりすることができます。Miracast™接続は、Wi-Fi 認証 Wi-Fi Direct™を使用して行われるため、Wi-Fi®ネットワークへのアクセスは必要ありません。

Wi-Fi Direct とは何ですか？また、Wi-Fi Direct を使用すれば受信機に接続できますか？

Wi-Fi Direct は、Miracast™接続が形成されるピア・ツー・ピア技術です。一部の新しい Android 4.0 や Windows 8.1 デバイスは、Wi-Fi ダイレクトデバイスのスキャンリストで受信機を検知しますが、受信機に接続することはできません。受信機と接続するには、デバイスが Miracast™に対応している必要があります。

互換性のあるノートパソコンを使って、Wi-Fi ルーターと受信機に同時に接続できますか？

可能です。まずノートパソコンを利用可能な Wi-Fi ルーターに接続し、次に受信機に接続します。その後、オンライン・コンテンツを表示し、HDTV に転送することができます。

Miracast™デバイスを使って、Wi-Fi ルーターと受信機に同時に接続できますか？

Miracast™デバイスの中には、Wi-Fi ルーターと受信機の両方に同時に接続できないものが

あります。詳細については、デバイスメーカーまたは通信事業者のユーザーマニュアルを参照してください。

複数の Miracast デバイスを同時に受信機に接続することはできますか？

マルチビューモードが有効な場合、最大 4 台の Miracast デバイスを同時に受信機に接続できます。

複数の ScreenBeam 1100 Plus 受信機に同時に接続できますか？

いいえ。デフォルトでは、一度に 1 台の ScreenBeam 1100 Plus にしか接続できません。ただし、ユーザーデバイスは、MultiBeam 設定で設定された複数の ScreenBeam 1100 Plus 受信機に投影することができます。詳細については、マルチビームユーザーガイドを参照してください。

ScreenBeam 1100 Plus は、ワイヤレスタッチとインキングに対応していますか？

はい。ScreenBeam 1100 Plus は UIBC をサポートしています。ソースデバイスには Windows 10 システムをインストールし、以下のハードウェア要件を満たす必要があります：

- 第 6 世代 Intel Core（またはそれ以上）プロセッサ
- AMD A4-5000（Kabini またはそれ以上）プロセッサ

DLNA を使用して、受信機にメディアをプッシュできますか？

いいえ。受信機は DLNA メディア受信機ではありません。

受信機は Apple iPhone、iPad、iPod で使用できますか？

ScreenBeam 1100 Plus は、AirPlay スクリーンミラーリングをサポートする Apple デバイスで使用できます。

ScreenBeam 受信機に USB 機器が接続されていなくても、Allow mouse, keyboard, touch, and pen input from this device（このデバイスからのマウス、キーボード、タッチ、およびペン入力を許可する）と表示されます。USB デバイスが存在しない状態でこのオプションがチェックされた場合、Miracast 接続に何か影響がありますか？

いいえ。これは Windows 10/11 の標準的な動作です。

付録 II. 注意事項

保証について

本製品には、購入日から 1 年間のハードウェア限定保証と 90 日間の無償ソフトウェア・アップデートが付与されています。

● 現地法

本限定保証規定は、お客様に特定の法的権利を付与いたします。お客様は、米国では州ごとに、カナダでは州ごとに、その他の地域では国ごとに異なるその他の権利を有する場合があります。

本制限付き保証に関する声明が現地の法律と矛盾する場合、本声明はかかる現地の法律と矛盾しないように修正されたものとみなされます。かかる現地法の下では、本保証書の一部の免責事項や 制限事項がお客様に適用されない場合があります。

GPL 情報

GNU 一般公衆利用許諾契約書 (GPL) 関連情報については、以下をご覧ください。

<https://opensource.screenbeam.com>.

テクニカルサポート

よくある質問、トラブルシューティングのヒント、ドキュメント、ファームウェアのアップデート、サポートについては、こちらをご覧ください：

<https://support.screenbeam.com>

サポートチケットの発行

<https://support.screenbeam.com/ticket>

ウェブサイト：www.screenbeam.com

FCC 警告

このデバイスは、FCC 規則の第 15 部に準拠しています。操作は、(1) このデバイスが有害な干渉を引き起こさないこと、(2) 望ましくない動作を引き起こす可能性がある干渉を含め、このデバイスが受信したあらゆる干渉を受け入れること、を条件とします。

準拠責任者によって明示的に承認されていない変更または修正は、本装置を操作するユーザーの権限を無効にする可能性があります。

注意：本装置は、FCC 規則第 15 部に従ったクラス B デジタル装置の制限に準拠することがテストにより確認されています。これらの制限は、住宅での使用において有害な干渉から適切に 保護することを目的としています。本装置は、無線周波数エネルギーを発生、使用、放射する可能性があります、説明書どおりに設置、使用されない場合、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。ただし、特定の設置場所で干渉が発生しないことを保証するものではありません。

本装置がラジオやテレビの受信に有害な干渉を引き起こす場合（干渉の有無は本装置の電源を切ったり入れたりすることで判断できます）、ユーザーは以下の手段の 1 つ以上によって干渉を修正することをお勧めします：

- 受信アンテナの向きを変えるか、位置を変える。
- 機器と受信機の距離を離す。
- 受信機が接続されている回路とは別の回路のコンセントに機器を接続する。
- 販売店または有資格のラジオ/テレビ技術者に相談してください。

FCC の RF 曝露ガイドラインに準拠するため、本機器は放射器と人体の間に 20cm 以上の距離を確保して設置し、操作してください。付属のアンテナのみを使用してください。

CE ステートメント

製造業者名 : ScreenBeam Inc.

住所 : 220 Devcon Dr., San Jose, CA 95112 USA

製品名 : ScreenBeam 1100 Plus;

商標 : ScreenBeam

モデル番号 : SBWD1100

動作温度 : 0° C ~ 40° C



この機器は、指令 2014/53/EU の必須要件とその他の関連規定に準拠しています。また、すべての必須無線テストスイートが実施されています。

詳細については、当社ウェブサイトをご覧ください : www.screenbeam.com/

テスト基準 :

EN IEC 62368-1 : 2020+A11 : 2020

EN 62311 : 2020;

ETSI EN 301 489-1 V2.2.3 (2019-11) ;

ETSI EN 301 489-3 V2.1.1 (2019-03) ;

ETSI EN 301 489-17 V3.2.4 (2020-09) ;

ETSI EN 300 328 V2.2.2 (2019-07) ;

ETSI EN 301 893 V2.1.1 (2017-05) ;

ETSI EN 300 440 V2.2.1 (2018-07) ;

EN 55032 : 2015+A1 : 2020;

EN 55035 : 2017+A11 : 2020;

EN IEC 61000-3-2 : 2019+A1 : 2021;

EN 61000-3-3 : 2013+A2 : 2021;

この機器は、人体から 20cm 離して使用した場合、RF 仕様を満たしたことになります。

動作周波数帯域 5150-5350MHz 「屋内専用」

地球環境に配慮してください！家庭ごみとして廃棄しないでください！

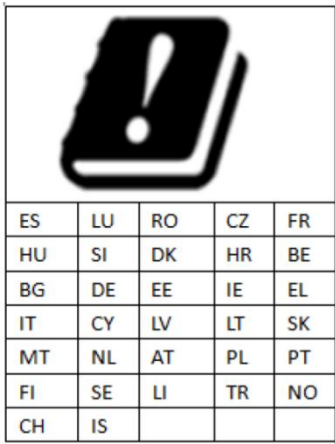
RF仕様：

Function	Operation Frequency	Max RF output power:	Limit
BT(BLE)	2402MHz~2480MHz	-0.31dBm	20 dBm
Wi-Fi 2.4G (802.11b/g/n20/n40)	802.11b/g/n20: 2412MHz~2472MHz; 802.11n40: 2422MHz~2462MHz;	19.98dBm	20 dBm
Wi-Fi 5.2G (802.11a/n20/n40/a c20/ac40/ac80)	802.11a/n(20MHz): 5180~5240MHz 802.11n/ac(40MHz): 5190~5230MHz 802.11ac(80MHz): 5210MHz	22.93dBm	23 dBm
Wi-Fi 5.3G (802.11a/n20/n40/a c20/ac40/ac80)	802.11a/n(20MHz): 5260~5320MHz 802.11n/ac(40MHz): 5270~5310MHz 802.11ac(80MHz): 5290MHz	22.98dBm	23 dBm
Wi-Fi 5.6G (802.11a/n20/n40/a c20/ac40/ac80)	802.11a/n(20MHz): 5500~5700MHz 802.11n/ac(40MHz): 5510~5670MHz 802.11ac(80MHz): 5530~5610MHz	22.95dBm	23 dBm
Wi-Fi 5.8G (802.11a/n20/n40/a c20/ac40/ac80)	802.11a/n(20MHz): 5745~5825MHz 802.11n/ac(40MHz): 5755~5795MHz 802.11ac(80MHz): 5775MHz	13.96dBm	13.98 dBm

5GHz 帯域における制限：

指令 2014/53/EU の第 10 条 (10) によると、この無線機器は、以下の市場に投入される際には、ある種の制限の対象となることがパッケージに示されています。

ベルギー (BE)、ブルガリア (BG)、チェコ共和国 (CZ)、デンマーク (DK)、ドイツ (DE)、エストニア (EE)、アイルランド (IE)、ギリシャ (EL)、スペイン (ES)、フランス (FR)、クロアチア (HR)、イタリア (IT)、キプロス (CY)、ラトビア (LV)、リトアニア (LT)、ルクセンブルク (LU)、ハンガリー (HU)、マルタ (MT)、オランダ (NL)、オーストリア (AT)、ポーランド (PL)、ポルトガル (PT)、ルーマニア (RO)、スロベニア (SI)、スロバキア (SK)、フィンランド (FI)、スウェーデン (SE)、トルコ (TR)、ノルウェー (NO)、スイス (CH)、アイスランド (IS)、リヒテンシュタイン (LI)。



TELEC ステートメント

屋内での使用に限定（5.2GHz 帯高出力基地局または中継局と通信する場合を除く）。

NCC の警告

検査証明を取得した低出力無線周波数装置については、その会社、商号、またはユーザーによる承認なしに、周波数の変更、出力の増大、または元の設計特性や機能の変更を行ってはいけません。低出力無線周波数装置の使用は、航空機の安全に影響を与えて、合法的な通信を妨害する不正行為をお控えください。そのような不正行為が発生した場合、直ちに使用を中止し、干渉が解消されるまで再使用することはできません。前述の「合法的な通信」とは、電気通信管理法の規定に基づいて行われる無線通信を指します。低出力無線周波数装置は、工業、科学、医療用の合法的な通信や無線周波数を使用する電気機器からの干渉を受け入れなければなりません。